

ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ  
期滿免除ヲ起算ス

(註) 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ逮捕ヲ命シタル日ヨリハ最終令狀ヲ出タル日ヨリ起算スヘシ之  
レ命狀ヲ發スルハ未タ犯罪ヲ忘レサルノ証ナレハ其レヨリ起算スルハ當然ナリトス

○第八節 復權

○第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ  
因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

(註) 復權トハ剝奪セラレタル公權ヲ有スルノ能力ヲ將來ニ回復スルヲ云フ而シテ其復權ヲ  
得ルニハ主刑ヲ終リタル日ヨリ又主刑ノ期滿免除ヲ得タルモノハ監視ニ付シタル日ヨリ  
五年ヲ經過シタル後其情狀謹慎ノモノナラサル可ラス然ラサレハ復權濫用ノ恐アルナリ

○第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀  
中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタルモノトス

(註) 大赦ハ恰モ罪ヲ消滅セシムルト同一ノ効力アルヲ以テ當然復權ヲ得ルモ特赦ハ唯タ  
刑ノ執行權ヲ消滅セシムニ過キササルヲ以テ特ニ赦狀中ニ復權ヲ得ル旨ノ記載アルカ然ラ

サレハ免刑後前條ノ期間ヲ經過セサレハ復權ヲ得ル能ハサルナリ大赦ハ前述ヘタル如ク  
罪迹ヲ消滅セシムルモノナレハ監視モ勿論免セラレタルモノナリ

○第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ  
(註) 復權ハ裁判ノ効力ヲ失ハシムルモノナルヲ以テ大赦特赦ト同シク勅裁ニアラサレハ  
得可カラズ之レ本條ノ規定セル所ナリ

○第三章 加減例

○第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但  
加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

(註) 法律上ノ加重減輕ト裁判上ノ加重減輕トハ問ハス以下數條ノ規定ニ從ヒテ加減スヘ  
キ者トス然レモ如何ナルキニ於テモ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルナリ之レ加重ノ制限ニシ

テ減輕ニハ制限ナシ

○第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス  
一 死刑 二 無期徒刑 三 有期徒刑 四 重懲役 五 輕懲役

○第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス  
一 死刑 二 無期徒刑 三 有期徒刑 四 重禁獄 五 輕禁獄

(註) 此二條ハ加重減輕ノ順序ヲ定メタルモノニシテ六十七條ハ常事犯ノ場合ニシテ六十  
八條ハ國事犯ノ場合ナリ



○第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

(註) 重罪ノ最低度ノ刑タル輕懲役輕禁獄ニ該ルモノ減輕スヘキハ通常ノ方法ニヨルハ輕キニ失スルヲ以テ輕罪ノ最モ重キ刑タル二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト減シタルモノトスル旨ノ特例ヲ設ケタリ

○第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ヲ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

(註) 輕罪ノ刑タル禁錮罰金ハ各本條ニ記載セル刑期金額ノ四分ノ一ヲ以テ一等トナキ故ニ其四分ノ一ヲ加ヘ或ハ減スルモノトス而シテ四分ノ一ヲ以テ一等トスルヲ以テ四等ヲ減スレハ免刑トナリ四等ヲ加フルハ二倍トナルヘシ然レモ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス又禁錮ハ加ヘテ七年ヲ超ユルヲ得サルナリ

○第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得  
(註) 禁錮罰金ヲ減シ盡シタル時又ハ禁錮罰金ヲ減刑シテ短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ拘留科料ニ處スヘキモノトス

○第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス 警違罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

(註) 本條ハ拘留科料ノ加減法ヲ定ム之レ禁錮罰金ト同シ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等トセリ然レモ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス唯々加ヘテ十二日ノ拘留二圓四十錢ノ科料ニマテ至ルヲ得ルノミ又減スルハ一日以下五錢以下ニ下ルヲ得サルナリ

○第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス  
(註) 本條ハ被告人ノ利益ニ禁錮拘留ヲ加減シ一日未滿ノ端數ヲ生シタルハ之レヲ除却スルモノトス

○第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス  
(註) 本條ハ附加ノ罰金ノ加減ニ係ル即チ主刑ト共ニ金額四分ノ一ヲ加減シ減盡シタルハ主刑ノミヲ科スルモノトス

○第四章 不論罪及ヒ減輕

○第一節 不論罪及宥恕減輕

○第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス天災又ハ意外



ノ變ニ因リ避ク可ラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同  
 (註) 本條ハ強制ニ基クテ不論罪ヲ定ム即チ抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非ラサル所爲  
 ハ無罪トス例ハ甲乙ノ手ヲ取り丙ヲ殺サシメタル如キ又甲乙ニ向ヒ丙ヲ殺サレハ汝ヲ  
 殺スヘント云フ如キ場合ニシテ第二項ハ天災意外ノ變ニヨリ避ク可ラサル危難ニ遇ヒ自  
 己又ハ親族ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲ヲ無罪トス故ニ例ハ航海中船舶沈没シ甲乙二  
 人一片ノ板ヲ争ヒ乙ヲ沈メテ甲自ラ其身ヲ全フシタル如キ場合ナリ是等ノ場合ノ無  
 罪タル蓋シ人トシテ難ノ自己ノ安全幸福ヲ願ハサラン自己ノ安全幸福ヲ棄テ他人ヲ害セ  
 スト云フハ仁人君子ノ行ニシテ一般人ニ望ム可ラス法律ハ一般ノ人情ニ基テ汲ミタル者  
 ナレハ敢テ之レヲ強ク可ラサルナリ故ニ必ス其受クル害ハ大ニシテ且目前ニ迫リタル  
 ナ要スルヤ勿論ナリ

○第七十六條

本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

(註) 元來官吏ハ其本屬長官ト命令ニ從フハ職務ナリ若シ官吏長官ト意見ヲ異ニスルハ  
 其命令ヲ奉スルヲ要セストセシカ政治亂レ法律ノ執行ヲ見ル能ハサルヘシ故ニ其命令ノ  
 當否ヲ問ハス服從シテ執行スヘキモノトセリ之レヲ以テ官吏カ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其  
 職務ヲ以テ爲シタル者ハ無罪ナリト規定セリ故ニ官吏ハ何等ノ責任ナキナリ蓋シ職務ヲ  
 執行シタル官吏ナレハナリ然レモ官吏ハ自己ノ屬スル長官ノ命令ヲ職務ヲ以テ執行シタ  
 ルヲ要ス故ニ例ハ警察官吏カ陸軍將官ノ命令ヲ以テ爲シタル如キハ本條ニヨルヲ得ス本

條ノ場合ハ將來カ軍卒ニ向テ發砲ヲ命シタルニ敵軍ト思ヒタルニ軍卒ハ官軍ト信スルモ  
 其命ニ從ヒ發砲シタルニ果シテ官軍ナリシト如キ軍卒ハ何ノ責任モナキナリ

○第七十七條

罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ  
 此限ニ在ラス 罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス 罪本重カ  
 ル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス 法律規則ヲ知ラサルヲ以  
 テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

(註) 犯罪人トシテ刑ヲ科スルニハ必ス罪ヲ犯スノ意即チ罪ト爲ルヘキ所爲ヲ行フノ意思  
 アリテ爲シタルヲ要ス然ラサレハ刑ヲ科スルヲ得ス例ハ謀殺タルヲ知リテ人ヲ殺  
 スヲ要ス鳥ヲ射ツ意ニテ人ニ中リタル如キハ謀殺ト云フヲ得ス之レ罪ヲ犯スノ意ナキ  
 ナリテナリ然レモ此場合ハ過失殺トシテ處罰セラルヘシ之レ一般ノ例外ニシテ大害ヲ未  
 發ニ防クノ注意ノ足ラサリシヲ責ムルモノナリ此例外タル罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ヲ罰ス  
 ルニハ必ス明カニ罪ト定メタル場合ナラサル可ラス

罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタルハ例ハ有夫ノ婦ナルヲ知ラスシテ密通ス又  
 ハ結婚シタル如キ場合ニシテ無罪タル勿論ナリ罪本ト重キヲ知ラサルトハ暗夜ニ他人ト  
 信シテ殺傷シタルニ祖父母母父母ナリシモノ如キヲ云フ之レ其重キ點ニ付テハ罪トナルヘ  
 キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ナレハ責任ナキハ當然ノコトナリ  
 法律規則ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシトシ責テ免ル、ヲ得ス蓋シ法律ヲ知ラサ



ルヲ口實トシ責ヲ免ル、トテ得ンカ法律ハ一日トシテ全キニ行ハル、ト能ハサルヘキヲ以テナリ

○第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者其罪ヲ論セス

(註) 罪ヲ犯ス時知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セサル者ハ無罪ナリト蓋シ犯罪責任ヲ負ハシムルニハ犯意ノ外辨別ヲ要スルハ勿論ナルニ辨別ヲ欠キタルヲ以テナリ其知覺精神ノ喪失セル者ハ白痴瘋癲狂氣醉狂等數多アリト雖モ要スルニ是等ノ者ハ犯罪責任ナキナリ

○第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

(註) 本條以下數條ハ幼年者ナルノ故ヲ以テ責任ノ輕重ヲ定メタリ而シテ本條ハ辨別智能ノ未タ發達セサル幼者即チ十二歳以下ノ幼者ナルトハ無罪タルヘキ旨ヲ定ム然レモ八才以上ナリシキハ十六才ニ過キサル間懲治場ニ留置スルヲ得ルモノトス之レ刑罰ニハアラズシテ一ノ保護法タルナリ

○第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其處爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案ニ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

(註) 本條ハ辨別智能ノ發達シタルヤ否判然セス各場合ニ付キ決セサル可ラサル年間ノ幼者ニ付キ規定シ辨別ナクシテ爲シタルトハ無罪トシ辨別アリシキハ二等ヲ減シテ罰スヘキモノトセリ其無罪ノトキ父母ノ監督不行届ノ如キ情狀ニヨリテハ前條ト同シク懲治場ニ留置スルヲ得ルナリ

○第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

(註) 本條ハ辨別智能ノ發達セルヲ確實ニシテ偶然ノ原因ニヨリ之レヲ喪失シタルヲ証明スルニ非ラサレハ犯罪責任ヲ免ル、ト能ハサル年間ノ幼者ヲ定ム然レモ常ニ本刑ヨリ一等ヲ減セラルヘシ

○第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

(註) 瘖啞者ハ智覺精神ノ喪失セルモノナルヲ以テ犯罪責任ナキモノトセルモ五年ヲ超ヘサル間懲治場ニ留置スルヲ許セリ

○八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

(註) 前數條ハ重罪輕罪ニ關シ定メタルモノニシテ違警罪ニ付テハ本條ニ定メ十六歳以上廿歳以下ナルトハ減等セス十二歳以上十六歳以下ノモノハ一等ヲ減シ十二歳以下ノ者及ヒ瘖啞者ハ無罪トセリ



○第八十四條

此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥減輕ハ名本條ニ於テ之ヲ記載ス

(註) 本節ニ定ムル外特別ノ不論罪宥減輕ハ二百十六條以下各本條ニ定ムヘキモノトセ

○第二節 自首減輕

○第八十五條

罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

(註) 自首ハ犯罪捜査ノ勞費ヲ省キ其証明ヲ容易ナラシムルノ利益アルヲ以テ左ノ條件ヲ具フルモノハ本刑ヨリ一等ヲ減セラル

一官ニ自首スルノ即チ自ラ進テ縛ニ就ク

二罪ヲ犯シ未タ發覺セサル前ナル

三犯罪ハ謀殺又ハ故殺ナラサルヲ謀殺ノ罪ハ往々始メヨリ自首ヲ爲スノ考コテ爲スアルヲ以テ減輕ノ利益ヲ與ヘサルナリ

○第八十六條

財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

(註) 本條ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニ自首ノ外損害ヲ賠償スルヲ促シヨリ即チ自首シ其贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首ノ外二等ヲ減シ其全部ヲ償還セサルモ半

數以上ナリシキハ一等ヲ減セラレ、ナリ

○第八十七條

財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ハ官ニ自首セサルモ被害者ニ首服スルキハ自首ト同ク減輕ノ利益ヲ受クルヲ得ルナリ

○第八十八條

此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ其本條ニ從フ

○第三節 酌量減輕

○第八十九條

重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シ 本刑ヲ輕減スルヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハテホ之ヲ減輕スルヲ得

(註) 犯罪ハ其事實ノ情狀千差萬別ナルヲ以テ本法各條ニ定ムル減輕ヲ適用シテ足レリトセス故ニ其情狀ニヨリ原諒スヘキハ重罪タルト輕罪又ハ違警罪タルト問ハス酌量シテ一等又ハ二等ヲ減スルヲ得ルモノトス之レ裁判官ニ支ヘタル權能ナリ既ニ本法ニヨリ加重減輕シタル者ト雖モ仍ホ減輕スルヲ得ルナリ

○第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス



(註) 本條ハ前條ニ併セテ説明セタリ故ニ復説セス  
第五章 再犯加重

○第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

(註) 再犯トハ先ニ罪ヲ犯シ其裁判確定シタル後ニ再ヒ罪ヲ犯スヲ云フ故ニ再犯者ハ初犯ノ裁判ニ懲リサル者ニシテ尙將來ニ累犯スルノ恐アル者ナリ故ニ之ヲ加重シテ罰スルナリ之レヲ以テ初犯輕キハ之レニ懲リス累犯シタリトシテ加重スルヲ得ス之レ本條ニ初犯重罪ニシテ再犯罪ナルヲ要スト定メタル所以ナリ

○第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ初犯重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再ヒ輕罪ヲ犯シタルハ加重スヘキモノトセリ

○第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

(註) 違警罪ニ付キ再犯加重スルニハ一年內ニ再ヒ違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタルハ再犯トシテ要スルナリ

○第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

(註) 初犯ノ裁判確定後ニアラサレハ再犯加重ヲ以テ論スルヲ得ス故ニ裁判確定シタル

以上ハ寸間刑ノ執行ヲ受ケタルヲナキモ可ナリ立法者ハ處刑ノ言渡ノニテ懲ラシメトナルモノト認メタリ

○第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服サセル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス 罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラヌ各之ヲ徴收ス

(註) 本條ハ初犯再犯ノ刑ヲ執行スル順序ヲ定メタリ即チ何レカ定役ニ服スヘキ刑ヲ先ツ執行シ服役ナキモノヲ後ニス初犯再犯何レモ服役アルハ又ハ服役ナキハ先ツ重キモノヨリ執行スヘキモノトシ罰金科料ハ順序ヲ要セス同時ニ徴收スルモ差支ナキナリ

○第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪當律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

(註) 陸海軍律ニヨリ處斷セラレタルモノ再ヒ重罪輕罪ヲ犯スト雖再犯加重ヲ以テ論ス可ラス蓋シ其性質ヲ異ニスルヲ以テナリ

○第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

(註) 大赦ナルモノハ罪迹ヲ消滅セシムルモノナレハ再ヒ罪ヲ犯スト雖再犯加重ヲ以テ論ス可ラサルハ勿論ナリ

○第九十八條 三犯以上ノ者ト雖再其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同



(註) 再犯ノ場合ハ以上數條ノ規定ニヨルヘク其三犯以上ノキト雖モ全シク再犯ノ例ニヨルヘキモノトス

○第六章 加減順序

○第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一 再犯加重
- 二 宥恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

(註) 本條ハ加重減輕ノ順序ヲ定ム即チ本條ニヨレハ從犯未遂犯ノ減等及ヒ各本條ニ記載セル特別ノ加重減輕ヲ加減シタル者ヲ以テ本刑トシ本條ノ順序ニヨリ加減シテ實際ニ科スヘキ刑ヲ定ムルモノトス

○第七章 數罪俱發

○第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ循テ處斷ス重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

(註) 數罪俱發トハ一人ニテ二個以上ノ罪ヲ犯シ其一ニ付テモ未タ確定裁判ノ存セサル狀態ヲ云フ此場合ニ於テハ一ノ重キニヨリテ處斷スヘキモノトス蓋シ數罪ヲ犯シタルモノハ傾惡ノ事實蔽フ可ラスト雖モ未タ懲戒ヲ嘗メサルヲ以テ再犯ノ如ク加重ス可所以ナケ

レハナリ

刑ノ輕重ヲ知ルハ重罪ノ刑ナルキハ刑期ノ長キモノヲ重シトシ刑期同一ナルキハ定役アル者ヲ重シトス輕罪ノ刑ニ付テハ犯罪情狀ノ重キモノニ從テ處斷スヘキモノトス

○第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ

(註) 違警罪ハ刑輕キヲ以テ二罪以上俱發スルモ各其刑ニ科シ重キニ依テ處斷スルヲナシ然レモ重罪又ハ輕罪ト俱發シタルキハ一ノ重キニヨリテ處斷スヘキモノトス

○第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セズ其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セズ

(註) 本條ハ一罪先ニ發覺シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發覺シタルキハ處分ヲ定ム即チ後發ノ罪前發ノ罪ヨリ輕キキ及ヒ等シキキハ之ヲ論セズ唯タ後發ノ罪前發ノ罪ヨリ重キキノミ之レヲ論シ前發ノ刑ヲ後發ノ刑ニ通算シテ執行スヘキモノトス其既ニ罰金科料ニシテ納メタルモノハ一圓ヲ一日ニ計算シテ後發ノ刑ニ通算スヘキモノトス若シ前發ノ罪ヲ判決スルキ發覺セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發覺シタルキハ再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前



發ノ刑ニ通算セズ

○第三百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本條ニ從フ

(註) 犯人ニ科スヘキ刑ノミ數罪俱發ノキハ一ノ重キニヨリテ定ムルモノナレハ沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各罪共ニ執行スヘキヲ勿論ナリ

○第八章 數人共犯

第一節 正犯

○第三百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

(註) 數人共犯トハ數人連合シテ一罪ヲ犯スヲ云フ而シテ多數人共犯ハ區別シテ正犯從犯トシ本節ニ於テ正犯ヲ規定セリ正犯トハ犯罪ノ實行ニ必要欠ク可ラサル行爲ヲ爲シタル者ヲ云フ故ニ二人以上共同一致ニテ現ニ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ正犯トシ各自ニ刑ヲ科スヘキモノトセリ

○第三百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

(註) 本條ハ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ正犯トナスト故ニ教唆者ヲ罪スルニハ教唆カ原因トナリテ犯罪ノ生シタルヲ要スルヲ以テ被教唆者犯罪ニ着手スルニ非ラサレハ教唆ハ成立セサルナリ

○第三百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

(註) 本條及ヒ次條ハ正犯ノ加減ハ他ノ共犯ニ及フヘキヤノ問題ヲ決セリ即チ本條ニヨレハ正犯ノ身分ニ基ク加重ノ情狀ハ他ノ正犯從犯ニ及フヲナシト故ニ例ハ正犯再犯ノ故又ハ子孫ノ故ヲ以テ加重セラル、モ他ノ共犯人ニ加重ヲ及スヲ得サルナリ然レモ犯罪事實ニ基ク加重ハ他ノ共犯人ニ及フヘキモノトス故ニ例ハ犯人ノ多數ニヨリ加重スルキハ總犯人ニ及フモノナリ然レモ教唆者ハ多數トシテ算入スルヲ得ス之レ次條ニ明定セル所ナリ

○第三百七條 犯人多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヲ得ス

(註) 犯人多數ニヨリ加重スヘキハ教唆者ヲ算入ス可ラサル所以ハ畢竟教唆者ハ犯罪事實ニ加ラサルヲ以テナリ蓋シ多數ノ故ヲ以テ加重スルハ防禦ヲ困難ナラシムルコアルモ教唆サレタル爲メ防禦ニ難易ノ區別アルヘキ理ナケレハナリ

○第三百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト異ナル者ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ者ハ止テ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス 二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス  
(註) 元來教唆者ハ教唆シタル犯罪ノ實行アルコアラサレハ之レヲ罰スルヲ得サルモソナリ故ニ假令人ヲ教唆スルモ事ヲ指定シタルキニ於テ犯者其指定以外ノ罪ヲ犯シ又ハ教唆



者指定以外ノ方法ヲ以テシタルハ其責ニ任スヘキモノニアラス之レヲ以テ本條ハ所犯  
教唆シタル罪ヨリ重キハ其教唆シタル罪ニヨリ又若シ輕キハ現ニ行ヒタル罪ニヨリ  
責ニ任スヘキモノトス例ハ竊盜ヲ教唆シタルニ強盜ヲナスモ教唆者ハ竊盜ノ刑ニ處セラ  
レ強盜ヲ教唆シタルニ竊盜ニ止リタルハ竊盜ノ刑ニ處セラルヘキナリ

○第二節 從犯

○第九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯  
ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ケラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所  
ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス

(註) 從犯トハ犯罪構成ニ必要ナラサル幫助ノ所爲ヲ爲スヲ云フ其從犯タルニハ左ノ要件  
具ハサル可ラス

- 一 正犯トナルヘキ犯罪アルヲ 正犯ハ既遂ナラス未遂ニテモ可ナリ
- 二 重罪又ハ輕罪ヲ幫助シタルヲ 違警罪ハ幫助スルモ罪トナラス
- 三 罪ヲ犯スヲ知テ幫助シタルヲ
- 四 法律ニ定ムル方法ヲ以テ幫助スルヲ 即チ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所  
爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ容易ケラシムルニアリ故ニ罪ヲ犯スモノアルヲ知テ防止セサル  
ハ罪トナラス正犯ヲ行ヒタル所爲從犯ノ知ル所ヨリ重キハ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ  
減スヘキモノトス

○第一百條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者重犯ト爲ル時ハ其重キコ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得

(註) 正犯ノ身分ニ基ク加重減輕ハ從犯ニ及ホスヲ得ス犯罪事實ノ情態ニ基クハ之レヲ  
及スヘキトハ前述ヘタリ若シ從犯身分ニ基ク加重ノ情狀アルハ其重キニヨリテ一等ヲ  
減シ正犯ニ及スヲ得ス故ニ例ハ從犯タル者己ノ父母ヲ殺スモノヲ幫助シタルハ子ハ  
父母ヲ殺ス罪ヨリ一等ヲ減セラル、ノミニシテ正犯ハ人ヲ殺ス罪ニ問ル、ヲ以テ却テ正  
犯ヨリ從犯ノ罪重キヲアリ

○第九章 未遂犯罪

○第十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ

刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セズ

(註) 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ犯罪ノ豫備ヲ爲スト雖モ未タ犯罪實行ニ着手セサル以上ハ  
罪トシ罰セズ蓋シ未タ罰スヘキ實害ナキヲ以テナリ然レモ國事犯ノ如キ豫備ノミニテ實  
害アリモノハ各本條ニ於テ特ニ罪トシ罰セリ

○第十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ失錯ニ因リ未タ

遂ケサル者ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

(註) 本條ハ未遂犯ノ規定ナリ即チ未遂犯トハ犯罪ニ着手シタルモ或ル原因ノ爲メ遂ケル  
ヲ能ハサルモノニシテ左ノ條件具ハルモノヲ云フ此未遂犯ハ本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減



セラル、モノトス

- 一 或罪ヲ犯サントシタル証據アルコト 故ニ過失罪ニハ未遂犯ナシ
- 二 罪ヲ犯スノ意思實行ノ端緒ニ表出シタルコト
- 三 其犯罪ヲ遂ケザリシハ意外ノ障礙若シクハ舛錯ノ爲メタルコト 舛錯トハ自己ノ仕損チ云ヒ意外ノ障礙トハ仕損ニアラサル總テノ防碍ヲ云フ例ハ人ヲ銃殺セントシテ發砲シタルニ己レノ技術ノ拙ナル爲メ中ラサリシハ舛錯ニシテ發砲セントシタルニ巡查ニ認メラレテ其意ヲ遂ケサリシ如キハ意外ノ障礙ナリ故ニ意外ノ障礙ハ未タ事ヲ行ハサルモノナルモ舛錯ハ已ニ事ヲ行ヒ終リテ結果ノ生セサルニアリ要スニ其己ノ意ヲ以テ中止シタル如キハ未遂犯ニアラサルナリ

○第一百十三條

重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス 違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

(註) 重罪ノ未遂犯ハ之レヲ罰スルモ輕罪ナルハ特ニ罰スルノ明文アルニ非ラサレハ罪トスルコトヲ得ス違警罪ハ如何ナルキニ於テモ未遂犯ヲ罰スルコトナシ

○第十章 親屬例

○第一百十四條

此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姉妹ノ子

及ヒ其配偶者 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子 七 配偶者

ノ祖父母 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子 十 配偶者

ノ父母ノ兄弟姉妹 (註) 本條ハ刑法ニ於テ親屬ト稱スルモノハ十項ニ定ムルモノヲ云フ旨ヲ定メタリ故ニ本

條ニ規定セルモノ、間ニハ竊盜ノ如キ其罪ヲ論セサルナリ

○第一百十五條

祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ 養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第三編 公益ニ關スル重罪輕罪

○第一章 皇室ニ對スル罪

○第一百十六條

天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス (註) 本條ハ天皇三后即チ太皇太后皇太后皇后及ヒ皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘタルモノ又ハ

危害ヲ加ヘントシタル者ヲ死刑ニ處スル旨ヲ定メタリ皇室ニ對スル罪ヲ重ク罰スル所以ノモノハ君權ヲ保維シ其威嚴ヲ完フスルノ精神ナリ

○第一百十七條

天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス 皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

(註) 本條ハ不敬ノ罪ヲ定メタリ天皇三后皇太子及ヒ皇陵ニ對シ不敬ノ所爲ヲ爲シタルモ



ノハ其手段ノ言語ヲ以テスルト文書圖畫舉動等ヲ以テスルトヲ問ハス苟モ不敬ノ所爲アルニ於テハ本條ノ刑ニヨリテ罰セラル、モノトス

○第一百八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 此二條ハ皇族ニ對スル危害罪及ヒ不敬罪ノ規定ナリ皇族中皇太后太皇太后皇太子ハ前二條ニ規定アルヲ以テ以下即チ皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王王妃内親王王妃女王ニ對スル罪ニシテ其危害ヲ加ヘタルモノハ死刑ニ其加ヘントシタルモノハ無期徒刑ニ處スヘキモノニシテ不敬ノ所爲アルモノハ百十九條ノ刑ニ處セラル

○第二章 國事ニ關スル罪

○第一節 内亂ニ關スル罪

○第二百一十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス一首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス 二群集ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期徒刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス 三兵器金

穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス 四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

(註) 本節ハ國事犯中内亂罪ノ規定ナリ内亂トハ朝憲ヲ紊亂スル目的ヲ以テ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊スル等ノ所爲ニシテ内國亂ル、ト云フノ謂ヒアリ故ニ其意國家ノ公益人民ノ福利ヲ計リ一身ヲ犠牲ニ供セントスルニアルモ苟モ朝憲ヲ亂ルノ目的ヲ以テ内亂ヲ起シタルモノハ本條ノ區別ニヨリテ處罰セラル其首魁トハ發起人ノ如キモノヲ云フ

○第二百一十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

○第二百一十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及下手者ヲ死刑ニ處ス

(註) 内亂ノ所爲ハ有形ノ暴動ヲ指スノ語タリ然ルニ此二條ニ於テハ内亂ヲ起スニ至ラサル者ヲ同一ノ刑ニ處セリ蓋シ内亂ヲ起スノ目的ニテ軍備ノ物品ヲ掠メ取り又ハ政府ヲ變亂スル目的ニテ人ヲ殺シタルモノナルヲ以テナリ若シ其目的ナカラシカ通常ノ竊盜罪又ハ謀殺罪ニ處セラル、ノミ百二十三條ニヨレハ其事ヲ教唆シタル者及ヒ實際事ニ當リタルモノヲ死刑ニ處スルモノトセリ

○第二百一十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス



(註) 本條ハ内亂ノ罪ニ於テハ未遂犯ノ場合ニ本刑ヲ科スル旨ヲ定メタリ蓋シ國事犯ナルモノハ之レヲ要スルニ現政府ヲ變亂シ又邦土ヲ僭竊シテ現政府ノ支配ヲ脱セントスルカ如キモノナレハ未タ事ノ成ラサルニ於テヨリ一ノ犯罪タルヘキニ既ニ其事ヲ成就スルニ於テハ誰カ之ヲ罰スルヲ得ン又何ヲ以テ犯罪ト云フヲ得ン之レヲ以テ未遂ノ罪ニ於テ本刑ヲ科セサレハ之レヲ罰スルノ罪ナケレハナリ宣ナリ國事犯ハ勝テハ官軍敗レハ賊ト

○第二百二十五條

兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ各二等ヲ減ス

一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス 内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

(註) 本條ハ内亂豫謀陰謀ノ處分ヲ定メタリ即チ未タ内亂ヲ起スニ至ラス單ニ兵隊ヲ募集シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ總テ内亂ノ豫備ニ過キサルモノハ内亂ノ罪ヨリ各一等ヲ減シ其

未タ豫備ニ至ラサル者ニシテ陰謀ニ止ルキハ各二等ヲ減シテ罰スルモノトセリ蓋シ危害至大ナルヲ以テナリ茲ニ陰謀トシテ罰スルニハ必ス二人以上通謀スルヲ要ス故ニ一人

ノ胸裡ニ其念ヲ蓄フルノミヲ以テ足レリトセス言語或ハ文書又ハ其他ノ舉動トナリ外人ニ通シテ共同ノ決意アルニアラサレハ本條ヲ適用スルヲ得サルナリ

○第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

(註) 本條ハ政略上危害ヲ未萌ニ防止スルノ主趣ニ基キ内亂ノ豫備陰謀ヲ爲スト雖モ未タ實害ノ生セサル以前即チ事ヲ行ハサル前廢止官ニ自首シタルモノハ本刑ヲ免スヘキモノトセリ然レモ再舉テ企ルノ恐レアルヲ以テ監視ニ付スヘキモノトス

○第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

(註) 本條ハ内亂ノ情ヲ知テ集會所ヲ供與シタルモノナレモ内亂ノ從犯ニアラス一個獨立ノ犯罪ナリ故ニ本條ノ罪ヲ幫助シタルモノハ從犯タリ

○第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 内亂ヲ起シ機ニ乘シテ普通ノ重罪輕罪ヲ犯シタルモノハ數罪俱發例ニヨリ重ニヨリテ處斷スヘキモノトス故ニ其重罪輕罪ハ内亂ノ目的ニ關セサルヲ要ス例ハ内亂ニ乘シ強姦ヲ爲スカ如シ

○第二節 外患ニ關スル罪

○第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

(註) 本節ハ國事犯中外患罪ノ現定ナリ外患罪トハ本國ト外國トノ關係上生スル時ノ犯罪ニシテ本條以下ニ現定セリ

而シテ本條ハ本國ニ干戈ヲ向クル患惡ノ者ノ刑ヲ定ム即チ交戰中外國ニ與シテ本國ニ抗敵スルモノ又ハ同盟國ニ抗敵スル者或ハ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ屬シタル者ハ死刑ニ處

スルモノトス

二百十七



スヘキモノトス交戦中トハ開戦ノ告示後平和ノ局ニ至ルマテノ間ヲ云フ以下同一ノ意義ニ解スヘシ

○第三百十條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス  
○第三百十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊集屯ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス  
敵國ヲ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

(註) 此ニケ條ハ敵ヲ助ケテ間接ニ本國ニ抗敵スル者ノ處分ヲ定ム即チ交戦中敵兵ヲ案内シテ本國管内ニ入ランノ又ハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處シ本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ知ラシメ又ハ兵隊集屯ノ要地或ハ道路ノ難易ヲ敵國ニ通知シ若クハ敵ノ間諜ヲ案内シテ本國管内ニ入ラシメタル者ハ無期流刑ニ處スヘキモノトス

○第三百十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス  
(註) 本條ハ軍備ノ欠乏ヲ致シタル罪ヲ定メタリ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケテ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲スノ義務アル者交戦中敵國ト通謀シ又ハ敵國ノ賂賂ヲ受ケ陸海軍ニ物品ヲ供給セヌ又工作ヲ爲サス爲メニ軍備ノ欠乏ヲ致シタル者ハ有期流刑ニ處ス故ニ此義務ナキ

者又ハ義務アルモ天災不可抗力ノ爲メ其義務ヲ盡ス能ハサルキハ軍備ノ欠乏ヲ生スルモ罰スルコトヲ得サルモノトス

○第三百十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

○第三百十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 百三十三條ハ私ニ外國ニ對シ戰端ヲ開クノ罪及ヒ局外中立ノ布告ニ背クノ罪ヲ定ム之レ外國ニ對スルモノニシテ本國ニ抗敵背叛スル者ニアラス然ルニ外患ノ罪トセシハ間接ニ本國ニ對シテ危害ヲ加フルヲ以テナリ而シテ私ニ戰端ヲ開クトハ國家ニ非ラサル一私人ノ戰闘ヲ云フト雖モ必ズ外國々家ニ對スルモノナラサル可ラス故ニ外國ノ一私人ト本國ノ一私人トノ戦ヒノ如キハ如何ニ多數人ナリト雖モ第百三十三條ニヨルコトヲ得ス  
外國交戦ノ際本國局外中立ヲ布告シタルニ此布告ニ反シ一方ニ附屬シタル者百三十四條ノ刑ニ處セラレ

○第三百十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(註) 本條輕罪ノ刑ニ處スル者ニモ監視ヲ付スヘキ旨ヲ定メタリ蓋シ再舉ヲ防止スルノ主旨ニ出ツ



○第二章 靜謐ヲ害スル罪

○第一節 兇徒衆聚ノ罪

○第三百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯衆シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ諭説ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ附和隨行シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ノ罪ヲ成スニハ左ノ條件ノ具ハルヲ要ス

- 一 兇徒多衆ヲ嘯衆シテ暴動ヲ謀ル
- 二 兇徒ナルモノアルニアラス多衆嘯衆シ暴動ヲ謀ルヲ以テ此名アルノミ

二官吏ノ説諭ヲ受ケテ尙ホ解散セサルヲ 故ニ官吏ノ説諭ニ從ヒ解散スルキハ其罪ヲ爲サス解散セサルニ於テ公安ヲ破リ社會ノ靜謐ヲ害スルモノナレハナリ

首魁教唆者附和隨行シタル者ト其刑ヲ異ニス

○第三百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯衆シテ官吏ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯衆ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ノ罪ヲ構成スルニハ二要件ノ具ハルヲ要ス

- 一 多人數集合スルヲ 前條モ全ク一人ニテ爲シ得ヘキモノニアラス必ス多人數ヲ嘯衆セサル可ラス

二 暴動ヲ爲スヲ 官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾スルカ如キ尙モ暴動ノ所爲アルヲ要ス暴動ヲ爲シタル者首魁教唆者ハ重懲役ニ其嘯衆ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ情輕キモノハ一等ヲ減シ附和隨行者ヲ罰金ニ處ス

○第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサルモ亦同シ

(註) 暴動ヲ爲スニ當リ人ヲ殺シ又ハ家屋船舶倉庫ニ火ヲ放チ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス故ニ創傷又ハ火ヲ放ツモ燒燬ニ至ラサル者ハ本條ノ刑ニ處セラル、トナシ又首魁教唆者ニシテ情ヲ知リ制止セサリシキハ下手者放火者ト同一ノ責ニ任スヘキモノトス

○第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可キ事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

(註) 本條ハ官命抗拒ノ罪ヲ定メタリ此罪ヲ構成スルニ二條件ヲ要ス

- 一 法律規則又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルノ職務アル官吏之レカ執行ヲ爲スヲ 故ニ官吏ナモ職務ナクシテ執行スルカ如キ違法ノ執行例ハ警察官吏令狀ヲ携スシテ人ヲ逮捕セントスル如キ場合ニ於テハ此罪ヲ爲サス
- 二 暴行脅迫ヲ以テ官吏ニ抗拒スルヲ 抗拒トハ執行ニ服セサルノミナラス進テ抵抗スル



チ云フ故ニ警察官引致セントスルニ當リ遁逃スルモ抗拒ノ罪タラス又口頭ヲ以テ抵抗スルモ本罪タラス進テ暴行脅迫ノ所爲アルヲ要ス  
此二條件具ハルキハ官權ヲ蔑如スル者ナルヲ以テ本條ノ刑ニ處ス又若シ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ行フ可ラサルヲ爲サシメタルモノモ抗拒ノ罪ト同一ニ論セリ蓋シ職務執行ヲ妨害スルモノナレハナリ

○第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

(註) 官命抗拒ノ罪ヲ犯シ官吏ニ創テ負ハシメタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニヨリ處斷スヘキモノトス

○第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

(註) 本條ハ官吏侮辱ノ罪ヲ定メタリ此罪ハ元來官吏タルノ名譽ヲ傷ケ官ノ威嚴ヲ損スルカ爲メナルヲ以テテス左ノ條件ノ具ハルヲ要ス

一官吏ノ職務ニ對シ侮辱スルヲ 故ニ官吏ノ資格ニ對セサルキハ誹毀又ハ罵詈ヲ爲スモ侮辱罪タラス  
二官吏ノ目前ニ於テハ言語又ハ形容ヲ以テシ其目前ニ非ラサルキハ刊行ノ文書圖畫又ハ

公然ノ演說ヲ以テスルヲ 刊行トハ印刷シタル者チ云フ蓋シ傳播ノ恐レ多キニヨルカ爲メナランカ筆記ノモノト雖モ數多アルキハ同一ノ恐レアリ然ルニ刊行ト限リタルヲ以テ筆記シタル文書圖畫ナルキハ之レヲ罰スルヲ得サルニ至ルノ不都合アリ次ニ公然ノ演說トハ公表スルノ謂ヒナリ故ニ其官吏ノミニ對スルキハ然ラス必ス官吏外ノ者ニ知ラシメ又ハ知り得ヘキ場所ニ於テスルヲ要ス

○第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 若シ獄舍獄

○第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 若シ獄舍獄具ヲ毀損シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條及ヒ次條ハ已決ノ囚徒逃走罪ヲ定ム囚徒トハ刑事ノ罪ヲ犯シ司法權ノ處分ニヨリ獄舍ニ在ルモノニシテ已決トハ已ニ犯罪ハタルヲノ確然定リタルモノヲ云フ故ニ此資格アルモノ逃走スルキハ本罪ヲ爲ス其所謂逃走トハ獄ノ境內ヨリ以外ニ出ルノミナラス獄外ニ於テ犯スヲ得ヘシ要スルニ刑罰執行權ノ支配ヲ脱スルヲ云フ而シテ其逃走スルニ當リ獄舍獄具ヲ毀損シ又ハ暴行脅迫ヲ爲スキハ其情重キヲ以テ本條末項ニヨリ處分セラル

○第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限內再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス  
(註) 已決ノ囚徒逃走スルモ再犯ト云フ可ラス何トナレハ初犯タルヘキモノアリテ初メテ生スルモノナルノミナラス刑ノ執行ヲ逃レントスルハ人情ノ止ヲ得サル所ナレハナリ然



レ同一期間内二度以上即ち再ヒ逃走スルハ刑罰執行權ヲ害スル甚キキテ以テ之レヲ再犯トセサル可ラス

○第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百十二條ノ例ニ照シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ未決囚徒ノ逃走罪ノ規定ナリ一般人民ハ法律ニ服從スルノ義務アリ然ルニ未タ罪人ナリト確定セサルモ已ニ司法權ノ行用ニ基キ獄舎ニ繫レタル以上ハ妄リニ逃走シテ執行權ヲ害スル點ニ於テハ已決ノ囚徒ト區別ナシ此場合ニ於テハ其主罪即ち原犯ノ罪ヲ判決スルハ數罪俱發例ニヨリテ處斷スヘキモノトス

○第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

(註) 本條ハ三人以上相謀テ逃走シタル場合ヲ定メ一等ヲ加フヘキモノトセリ蓋シ其害夥シキヲ以テナリ

○第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシメタル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

○第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

(註) 此兩條ハ囚徒ノ逃走ヲ助クルノ罪ナリ囚徒ヲ逃走セシムルノ意思ニテ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタルモノハ逃走セサルモ第四百十六條ニヨリ處罰セラレ囚徒逃走シタルハ一等ヲ加ヘテ罰セラル之ヲ普通ノ從犯ノ場合ト同一ナリ若シ囚徒ヲ劫奪又ハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタルハ第四百十七條ノ罰ニ處セララル、モノトス

○第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スルノ任アル者例ハ看守押丁ノ如キ者囚徒ヲ逃走セシメタルハ前條ノ刑ニ處セララル其故意ナク懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサリシ者ハ百五十條ノ刑ニ處セララル、モノトス

○第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 前數條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノト雖モ未遂犯罪トシテ罰スル旨ヲ定メタル

○第四百十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ前已ニ説明シタリ

○第四百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知テ藏匿シ若シハ隠避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加



若シ重罪ノ刑ニ處セラシタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ罪人藏匿ノ罪ヲ定メタリ即チ犯罪人又ハ其未決ナルト已決ナルトヲ問ハズ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ附セラレタル者ナルコトヲ知リ司法權ノ搜查追捕若シテハ刑罰ノ執行ヲ免シムルノ故意ヲ以テ之レニ藏匿セハ本罪ヲ構成スヘキ其藏匿トハ自己ノ家屋土地内ニ於テ官ノ發見ヲ避ケンノ陰避トハ其以外ニ於テスルチ云フ

○第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ罪証隠蔽ノ罪ナリ他人ノ罪ヲ免レシムルノ意ヲ以テ其罪證トナルヘキ物件ヲ隠蔽シタル者ヲ罰スヘキ條文ニシテ其隠蔽トハ知ルコト能ハサラシムルチ云フ故ニ其物件ヲ隠スモ之レヲ毀滅スルモ可ナリト雖モ罪証トナルヘキ物件ヲラサル可ラス

○第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

(註) 罪人藏匿ノ罪及ヒ罪証隠蔽ノ罪ヲ親族ノ爲メニシタルキハ前二條ヲ適用シテ罰スルコトヲ得サル旨ヲ定メタリ蓋シ親族ノ罪ヲ免レシメント謀ルハ人情ノ止ムテ得サル所タルヲ以テナリ

### 第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

○第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 百五十四條ハ公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フタルモノヲ罰シ百五十五條ハ監視者監視規則ニ違反シタル者ヲ罰スルモノニシテ刑罰權ノ効ヲ確保スルコアリ

○第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス  
(註) 本條ハ囚徒逃走罪ト同一ノ精神ニ基キ其刑期限内ニ再ヒ前二條ノ罪ヲ犯スニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論セサル旨ヲ定メタルナリ

### 第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

○第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スニテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
○第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ未タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本條ニ照シ二等ヲ減ス



○第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
○第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物ヲ製造又ハ所有スルコトハ必ス官ノ命令アルカ又ハ官許ヲ得サル可ラス然ルニ官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ之等ノ物件ヲ製造シ又ハ輸入シタル者ハ百五十七條ノ刑ニ處セラルヘク若シ私ニ販賣シタルハ全條ノ項ニヨリ罰セラレ私ニ所有スルハ百六十條ノ刑ニ處セラル蓋シ是等ノ物件タル之レヲ所有スルノミニテ社會ノ靜謐安寧ヲ害スル危險ノ物タルヲ以テナリ然レモ職工若シハ雇人コシテ正犯ノ命ニ從ヒ爲シタル者ハ本刑ヨリ二等ヲ減シ百五十八條ヲ適用セラルモノトス而シテ百五十九條ニヨレハ本節ノ罪ハ主遂犯ヲ罰スヘキモノナリ

○第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

(註) 前數條ノ罪ヲ犯ス爲メ備付タル器械ハ之レヲ沒收ス其何人ノ所有タルヲ問ハズ沒收スル所以ノモノハ社會ニ危險アルヲ以テ行政警察上ノ處分トシテ爲スモノナリ

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

○第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損害シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本節ハ往來通信ノ自由安全ヲ保護スルノ結果ニシテ本條ハ往來ヲ妨害スル罪ナリ往來ヲ妨害スルノ意ヲ以テ道路橋梁河溝港埠ヲ損害スルヲ要ス此手段ナキハ妨害ノ實アルモ本條ニヨリ罪スルヲ得ス

○第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ(註) 本條ハ通信ノ自由ヲ害スルノ所爲ニシテ郵便ヲ妨害シ又ハ阻止スルニ偽計又ハ威力ヲ以テシタルモノハ前條ト同一ノ刑ニ處セラレ、ナリ

○第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又條線ヲ切斷シテ電信ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

(註) 本條ハ電信ヲ不通ヲラシムルノ罪ヲ定メタリ即チ本罪構成ノ原素ニテ要ス一電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷スルノ所爲アルヲ 此以外ノ所爲ニテハ本條ノ罪ヲ爲サズ

○第百六十五條 氣車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

○第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ



(註) 鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シ瀛車ノ往來ヲ妨害シタルモノハ百六十五條ニヨリ重懲役ニ處セラレ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル目標ヲ損壞シ又ハ詐欺ノ目標ヲ設ケテ船舶ノ往來ヲ妨ケタルモノモ同一ノ刑ニ處セラル若シ爲メニ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタルハ百六十九條ニヨリ無期徒刑ニ處セラレ依テ人ヲ死ニ致セタルハ死刑ニ處スルヘキモノトス

○第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

(註) 前數條ハ普通人ノ犯シタル場合ナルカ本條ハ其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタルハ一等ヲ加ヘテ罰スヘキ旨ヲ定メタリ之レ職務ニ反スルヲ以テ其狀重キヲ以テナリ

○第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ歐打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタルハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルハ死刑ニ處ス

(註) 本條ハ第百六十五條百六十六條ノ説明中ニ述ヘタリ

○第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ讀テ字ノ如シ説明ヲ要セサルナリ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

○第百七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ヘ入りタル者ハ十日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶墻壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入タル時 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶シテ入りタル時 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時 四 二人以上コテ入タル時

○第百七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

(註) 本節ハ人住居ノ安寧ヲ害スル罪ニシテ本條ハ晝間侵ス場合ヲ定メ次條ニ於テ夜間ノ場合ヲ定メタリ即チ故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入ルヲ云フ故ニ我所有ノ家屋ナルモ他人ノ之レニ住居スル以上ハ此犯罪ヲ構成スヘシ其所謂故ナクトハ原因ナキノ謂ニアラス權利ナキヲ云フ故ニ看守者ノ承諾ナク妄リニ侵入スルハ成立スルモノトス而シテ其侵入ノ所爲左ノ一ニ該當スルハ一等ヲ加フヘキモノトス

一 門戶墻壁ヲ損壞シテ入りタル時 二 鎖鑰ヲ開キテ入りタル時 三 兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シテ入りタル時 四 暴行ヲ爲シテ入りタル時 五 二人以上コテ入りタル時 之レ其狀重キヲ以テナリ



夜間ト晝間トヨリ刑ニ輕重ノ區別ヲ設ケタル所以ノモノハ夜間ハ晝間ヨリ犯スニ易クシテ防クニ難キヲ以テナリ

○第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

(註) 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加ヘテ處分スヘキモノトセス

○第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

○第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ看守人自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ封印破棄ノ罪ヲ定メタリ此罪構成ノ原素ヲ左ニ掲ク

一官署ノ處分ニヨリ特別ニ爲シタル封印ナルヲ

二封印ヲ破棄スルヲ 封印破棄トハ封印ヲ破リテ封印タルノ効力ヲ失ハシムルヲ云フ

看守者自ラ封印ヲ破棄シタルハ一等ヲ加ヘ若シ看守者自己ノ懈怠ニヨリ封印ヲ破棄シ

又ハ其物ヲ竊取毀壞スル犯人アルヲ覺トラサリシキハ第七十六條ノ刑ニ處セラルヘシ

○第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ハ破棄ノ結果其物件ヲ竊取シ又ハ毀壞シタル者ハ竊盜毀壞ノ各本條ニ從ヒ重キ

ニ依テ處斷スヘキモノタルヲ定メタリ

○第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺

ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ第七十四條ノ說明ニ述ヘタレハ略ス

○第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

○第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ

之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ陸海軍ノ將校出兵要求ノ權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ何等ノ理由ナク出兵セ

サリシ罪ヲ定メタリ以下本節ノ罪ハ簡易一讀スレハ明ナリ

○第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所

爲テ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ

其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

○第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナ

クシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

○第八十條 裁判所ヨリ証人トシテ証據ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セ

サルハ亦前條ニ同シ



(註) 一言スヘキハ鑑定人ハ職業以外ノコニ付キ鑑定ヲ命セラレタルキハ之レヲ拒ムモ罪ヲ爲スコトナシ

○第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス 獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

○第四章 信用ヲ害スル罪

○第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

○第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(註) 本條ハ前一項ニ於テ貨幣ノ偽造行使ノ罪ヲ定メタリ即チ左ノ要件ヲ具フル者ハ貨幣偽造行使ノ罪アルモノトシテ無期徒刑ニ處セラレヘシ

一 內國通用ノ金銀貨及紙幣ナルコト 故ニ現今通用セル者ナルヲ要スルヲ以テ已ニ通用禁止ノモノナルキハ其罪ナシ

二 偽造シテ行使スルコト 偽造トハ貨幣ニアラサルモノヲ以テ貨幣ヲ造ルノ謂ヒナリ故ニ假令其價眞貨幣ヨリ貴キモ眞正ノ貨幣ニ非ラサル以上ハ此罪ヲ構成スト雖モ單ニ偽造ノミニテハ罪ナカラス之レヲ行使セサル可ラス蓋シ偽造貨幣ノ信用ヲ害スルハ交換ノ媒タル爲メニ行使セラレヌンハ此愛ナケレハナリ而シテ其行使トハ眞貨トシテ通用セシ

ムルノ意ヲ以テ融通ニ供スルコト云フ要スニ此罪ハ行使ヲ以テ成立ツモノトス 次ニ本條第二項ニ於テ變造行使ノ細ヲ定メタリ此變造ノ場合ニ於テモ內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ナルコトヲ要スルハ勿論ナリ而シテ其變造トハ眞正ノ貨幣ヲ量目ヲ減シ或ハ名價定形ヲ變更スルコト云フ故ニ二十錢紙幣ノ名價ヲ改メ五十錢トスルカ如キ金貨ノ側ノ削リテ量目ヲ減スルカ如キコト云ヒ又二十錢銀貨ヲ金鍍シテ五圓金貨トナシタル如キモ尙ホ變造ト云フヘシ貨幣變造ノ罪モ之レヲ行使セサレハ成立スルコトナキナリ

○第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 前條ハ內國ノ貨幣ニ係ル場合ヲ定メ本條ハ外國ノ金銀貨ヲ偽造又ハ變造シタル場合ヲ定メタリ外國貨幣ヲ偽造變造シテ行使シタル罪ヲ構成スルニハ必ス內國ニ於テ現ニ適用セルモノナラサル可ラス然ラサレハ政府ノ認メタル貨幣ト云フコトヲ得サレハナリ

○第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ銀行紙幣ノ偽造變造行使ノ罪ナリ銀行ト雖モ官許ヲ得サレハ紙幣發行ノ權ナシ必ス相當ノ手續ヲ爲シ許可ヲ得サル可ラス其既ニ許可ヲ得テ發行シタル銀行紙幣例ハ日本銀行兌換紙幣ノ如キハ政府ノ發行紙幣ト同シク供通ノ効力アルヲ以テ之レヲ偽造又ハ變造シテ行使セシカ信用ヲ害スルヲ以テ本條ノ刑ニ處セラレヘシ



○第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス 若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條ハ内國通用ノ銅貨ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル罪ヲ定ム之レテ前數條ニ比スレハ其刑輕キ所以ノモノ銅貨ハ金銀貨ノ如ク價貴カラス從テ社會ニ害惡ヲ流スフ少カラントノ主意カ

○第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス 若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各二等ヲ減ス

(註) 本條ハ前數條ノ罪ニハ總則未遂犯ノ例ヲ適用セス特別ノ處分方ヲ定ム即チ金銀銅貨紙幣ヲ偽造又ハ變造スルモ未タ行使セサルモノハ其實害ナキヲ以テ各本刑ヨリ一等ヲ減シ未タ偽造變造ノ成ラサルモノハ二等ヲ減シ又單ニ器械ヲ豫備シタルノミニ止ルキモ等ク減スヘキモノトセリ

○第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スル事情ヲ知テ雇テ受タル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ヘキ刑ニ照シ各一等ヲ減ス 若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

○第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本條ニ照シ二等ヲ減ス

(註) 他人ニ房室ヲ給與スルハ法律ノ禁スル所ニアラスト唯モ貨幣ヲ偽造又ハ變造スルノ情ヲ知テ爲シタルハ犯罪ヲ容易ナラシムルヲ以テ本條ニヨリ罰セラルヘシ二條トモニ情ヲ知テ爲シタルヲ要ス

○第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ國內ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

(註) 内國通用ノ貨幣ト雖モ外國ニ於テ偽造變造スルハ罪トナラス之レヲ内國ニ輸入スル

キハ行使ノ恐アルヲ以テ内國ニ於テ偽造變造シタル者ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

○第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受メ之レヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス 其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

(註) 偽造變造ノ貨幣ナルヲ知リテ受取り之レヲ使用シタル者及ヒ受取りタルモ未タ使用セサルモノハ本條ニ因テ處斷セラル

○第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(註) 本條ハ犯罪往々再擧ノ恐アルヲ以テ監視ニ付スル旨ヲ定メタリ

○第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入受取シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス 若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

(註) 本條ハ害ヲ未前ニ防キ犯者ヲ悔悟中止ヲ誘フ政略上ノ規定ニシテ即チ自首全免ナリ



○第九十三條 貨幣ヲ受取スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ受取シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スルヲ得ス

(註) 本條ハ貨幣ヲ受取リタル後其貨幣ヲ偽造又ハ變造ナルヲ知リテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム蓋シ自ラ知テ行使スル者ナレハ爲メ信用ヲ害シタル責ニ任セサル可ラサレハナリ

○第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 此三條ハ偽造及偽造使用ノ罪ヲ定ム而シテ第九十四條ハ天皇陛下ノ御印及ヒ政府ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル場合ニシテ從テ其害鮮少ナラサルヲ以テ重ク罰セリ百九十五條ハ官署ノ印ヲ偽造シ又ハ之レヲ使用シタル場合ニシテ百九十六條ハ產物商品書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章例ハ商品ニ押用スル專賣特許ノ刻印ノ如キモノニ係ル場合ヲ定メタルモノナリ

○第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス 若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

(註) 本條ハ影蹟盜用ノ罪ニシテ其使用ノ害普及スルノ範圍狹隘ナルヲ以テ輕ク罰シタリ然レモ看守者自ラ盜用スルハ偽造シタルト其害甚異ナラサルヲ以テ偽造ト同一ニ罰

セリ之レ其權衡上然ラサルヲ得サルナリ

○第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 各種ノ印紙官ヨリ發行スル界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ偽造變造ナキヲ知リテ使用シタル者并ニ再貼シタル者ノ制裁ヲ定メタルモノニシテ讀テ字ノ如キ以下二條トモ説明ヲ要セス

○第一百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○第一百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

○第一百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス 其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

○第一百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ輕懲役ニ處ス 其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ



(註) 二百二條ハ詔書ヲ偽造又ハ増減變換シタルモノヲ罰シ二百三條ハ官ノ文書ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使シタルモノト罪ヲ定ム變換トハ權利ナクシテ爲メニ害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノナルヲ要ス次ニ偽造變造ハ要スルニ其文書ヲ作リタル者ト作ラレタル文書ノ關係ヲ僞ルニアリ此二條共ニ其毀棄ヲ罰シタリ毀棄トハ文書ノ効力ヲ消滅セシムルノ謂ヒニシテ其文書ノ紙片ヲ破リ其物ヲ消滅セシムルヲ要セサルナリ

○第二百四條 公債證券地券何地官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス 若シ無記名ノ公債證券ニ係ル時ハ一等ヲ加フ  
(註) 本條ハ公債證券地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又増減變換シテ使用スルノ罪ヲ定メ無記名ノ公債證券アルルハ其害ノ及フ大ナルヲ以テ一等ヲ加ヘテ處分スヘキモノトセリ

○第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ 其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ  
(註) 官吏他人又ハ自己ノ利害ノ爲メ使用スルノ意ヲ以テ其管掌ニ係ル文書ヲ自ラ偽造シ又ハ増減變換シ使用シタルハ普通ノ場合ニ一等ヲ加ヘテ罰ス其文書ヲ毀棄シタルハモ全シ之レ其情重キヲ以テナリ

○第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
(註) 本條ハ官ノ文書ヲ偽造スル爲メ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルハ官印偽造盜用ノ各本刑ニ照シ重キニ依テ處斷スヘキヲ定メタリ

○第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス  
○第四節 私印私書ヲ偽造スル罪  
○第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス  
(註) 第二節第三節ノ說明ニ於テ述ヘタル理論解釋ヲ適用スルヲ得ルヲ以テ別ニ述フルヲ要セス

○第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス 其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

○第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 其ノ餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 二百九條ハ流通證書ヲ偽造又ハ増減變換シテ使用シタル者ノ刑ヲ定メ二百十條ハ私



人相互ノ間ニ於ケル權利義務ニ關スル証書ヲ偽造又ハ増減變換シテ使用シタル者ノ利ヲ定ム其權利義務ニ關スル証書トハ賣渡証書金錢借用証書ノ如キモノヲ云フ

○第二百一十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○第二百一十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

○第二百一十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ官ノ免狀又ハ官ノ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル罪ヲ定ム若シ真正ノモノヲ増減變換シテ使用シタル者ハ二百一十七條ノ刑ニ處セラル爲メニ官印ヲ偽造又ハ盜用シタル者ハ第二節ノ各本條ニ照シ重コヨリテ處斷セラル

○第二百一十四條 族籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ詐稱ノ故意ヲ以テ屬籍身分氏名ヲ詐リテ免狀鑑札ヲ受ケタル者及ヒ官吏其詐

リナルヲ知テ免狀鑑札ヲ下付シタル者ノ處分ヲ定メタリ之レ証書ヲ偽造スルモノニアラスシテ其証書ノ事實ヲ詐ルモノナリ

○第二百一十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ証書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

○第二百一十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ証書ニ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

(註) 公務ヲ免ル、爲メ醫師ノ診斷書ノ如キ疾病証書ヲ偽造シテ使用シタルモノハ其自己ノ爲メニスタルト他人ノ爲メニスタルトヲ問ハス二百一十五條ノ刑ニ處セラル若シ醫師依頼ヲ受ケテ詐欺ノ証書ヲ作りテ與ハタル者ハ一等ヲ加ヘテ處分スヘキモノトス而シテ其事陸海軍ノ徵兵ヲ免ル、爲メ疾病証書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ依頼ヲ受ケテ証書ヲ作りタル醫師ハ二百一十六條ニヨリ二百一十五條ノ例ニ依テ各一等ヲ加フヘキモノトス

○第二百一十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ証書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

○第六節 偽証ノ罪

○第二百一十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス 一重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 二輕罪ヲ



曲庇スル爲ニ偽証シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 三違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

○第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

(註) 本節ハ偽証ノ罪ヲ定メ本條ニ於テハ被告ハチ曲庇スル場合ヲ定ム抑モ偽証トハ詐僞ノ証言ヲ爲スノ謂ヒニシテ証言トハ裁判所ノ認定ニ於テ証人トシテ呼出テ受ケ出頭シ正式ニ宣誓ヲ爲シタル者證據トシテ或ル事實ノ陳述ヲ爲スヲ云フ其偽証ヲ爲スヤ必ス其事ノ虛妄ナルコトヲ知リ且ツ他人ヲ利シ又ハ害スルノ意ヲ要スルコト非ラサルモ詐僞ノ陳述ヲ爲スノ意アレハ足レリ

然レモ本條ノ罪ヲ成スニハ必ス被告人チ曲庇即チ利スルノ意思アルコト必要トセリ故ニ被告人罪ヲ免レシムル意ヲ以テ事實ヲ隱シ又ハ無根ノ事實ヲ陳述スルヲ要ス而シテ其被告人ノ罪ノ輕重ニヨリテ其刑ヲ異ニセリ若シ偽証ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタルキハ一等ヲ加フヘキモノトス

○第二百二十條 被告人チ陷害スル爲メ偽証ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス 一重罪ニ至ラレムル爲メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ニ陷ラレムル爲メ偽証シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス 三違警罪ニ陷ラレムル爲メ偽証シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ附加ス

○第二百一十一條 偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ偽証者チ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス若シ其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコト得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

(註) 此兩條ハ被告人チ陷害即チ害スル爲メ偽証ヲ爲シタル場合ヲ定メタリ故ニ被告人チ害スルノ意アルコトヲ要スルナリ而シテ偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタルキハ偽証者チ其刑ニ反坐スト雖モ偽証ノ刑ヨリ輕キキハ偽証ノ刑ニ處ス然レモ刑期既ニ經過シタル日數ハ偽証ノ刑ヨリ降ラサル以上ハ反坐ノ刑ヲ減スルコトヲ得ルナリ

○第二百二十二條 偽証ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス 若シ被告人チ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽証ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

(註) 總テ被告人チ害スルノ偽証ナルキハ反坐ノ刑ニ處スト雖モ死刑ノ場合ニ於テハ酷ニ失スルヲ以テ特別ノ定テ爲サル可ラス之レ本條ノ規定アル所以ナリ即チ一等ヲ減シ未タ



執行セザル前ニ發覺シタルハ二等ヲ減ス然レモ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ナリシハ死刑ニ反坐ス未タ其執行セサル前ナルハ實害ナキヲ以テ減等ス

○第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處テ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ民事裁判所商事裁判所又ハ行政裁判所ニ於テ是等ノ事件ヲ偽証シタル者ノ刑ヲ定メタルモノニシテ刑事ニ關スルヨリ其刑輕キ所以ノモノハ刑事ニ付テハ貴重ナル生命身體財産ニ關スルヲ以テナリ

○第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ鑑定人又ハ通事力裁判所ニ於テ詐欺ノ陳述ヲ爲シタル者ノ刑ヲ定メタリ

○第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽証ノ例ニ同シ

(註) 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ依頼シテ偽証又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ自ラ爲シタル者ト同一ナルヲ以テ同シ責ニ任セシメタリ

○第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

(註) 偽証ノ罪已ニ成立スルモ未タ本件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ自首スルハ本刑ヲ免除ス蓋シ未タ其害ノ生セサルノミナラズ偽証者ノ自首ヲ促ス政略等ノ規定ニ外ナラザリ

### 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

○第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 度量衡ニハ一定ノ法規アリ然ルニ之レニ反シテ自ラ製造シ又ハ真正ノモノヲ變更シテ販賣スル者ハ相當ノ刑ヲ定ム蓋シ爲メニ社會ニ害惡ヲ流スヲ大ナレハナリ若シ官ノ印記號ヲ偽造又ハ盜用スルハ其罪ニ照シ重キニヨリテ處斷セラル

○第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

(註) 偽造變造ノ度量衡ナルヲ知テ販賣シタル者ハ自ラ造リタルモノヨリ情輕キヲ以テ一等ヲ減ス

○第二百二十九條 商買農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐偽取財ヲ以テ論ス



(註) 商人農工ニシテ其定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スル者ハ之レヲ使用スルノ忍アルヲ以テ二百二十九條ノ刑ニ處セラル若シ之レヲ使用ニ利ヲ得タル者ハ詐僞取財ノ刑ニ處セラルヘシト雖モ其之レヲ使用スルモ利ヲ得サル者ハ其罪成立スルコトナシ次ニ自ラ偽造變造シタル他人ノ依頼ニヨリテ爲シタル者ハ一等ヲ減スルモノトス二百三十條ノ定ムル所ナリ

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

○第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 身分トハ屬籍身分氏名年齢職業ヲ云フ是等ノモノハ一人ト一人ト相分ツコト得ルモノナリ若シ之レナクシテ同一人タルヲ知ルニ由ナシ是レヲ詐稱スル者ハ一般ヲ害スル大ナリ之レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ身分詐稱ノ罪タルコトハ必ス官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ詐稱スルコトヲ要ス故形容例ハ汝ハ外國人ナリヤトノ問ニ對シ點頭シタル如キハ此罪ヲ成立スルコトナシ

○第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ盗用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
(註) 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ官ニ對スルト他人ニ對スルトト問ハス本條ニヨリテ處分セラル

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

○第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 公選ノ投票トハ公共ノ事務ニ關スル役員ノ選舉投票ヲ云フ例ハ村會議員又ハ帝國議會議員ノ選舉ノ如キ云フ故ニ公共ナラサル私立會社ノ如キニ於テハ之レヲ偽造スルモ又増減スルモ本節ノ罪ヲ爲サス而シテ此投票ヲ賄賂ヲ以テ爲サシメ又ハ之レヲ受ケテ爲シタル者ハ二百三十四條ノ刑ニ處セラル若シ投票ノ檢査及計算スル任アルモノナル者ハ二百三十五條ノ調書ヲ作り結果ヲ報告スルノ任アルモノナル者ハ二百三十六條ヨリ處斷セラレ蓋シ其等ノ者ハ自己ノ任務ニ背キテ不正ヲ爲スモノナレハ通常人ニ比シテ重カラルサヲ得サルナリ

第五章 健康ヲ害スル罪



○第一節 阿片烟ニ關スル罪

○第二百三十七條 阿片烟ニ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

(註) 阿片烟ハ何人ト雖モ所持スルコトヲ得サルモノニシテ官許ヲ得ルコト能ハサルモノナリ

是レヲ以テ法律ハ本節ニ於テ阿片烟ノ製造販賣輸入及ヒ之レヲ吸食スルノ器具ヲ輸入製造販賣ヲ禁シ税關官吏其阿片烟及ヒ吸食ノ器具ナルコトヲ知テ輸入セシメタル者及ヒ其情ヲ知テ房室ヲ貸シタル者ヲ罰セリ

自ラ吸食シタル者ハ二百四十一條コトニ吸食セシメタル者ハ二百四十條末項ヨリ處分セラレ自ラ所有シ又ハ預リタルモノハ二百四十二條ノ刑ニ處セラレ、ナリ本節ハ逐條説明ヲ俟タズ明ナリ

○第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○第二百三十九條 税關官吏事情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

○第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス 人ヲ誘引シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者ハ同シ

○第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

○第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所持シ又ハ受寄シタル者一月以上一年以下ノ重懲

ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

○第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 如何ナル手段ニ出ルコト問ハス人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ飲ム能ハサルニ至ラシメタルモノハ本條ノ制裁ヲ受ケサル可ラス

○第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 人ノ飲料ニ用ユル水ニ健康ヲ害スヘキ物ヲ以テ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタルモノハ本條ノ刑ニ處セラレ因テ人ヲ病疾又ハ死ニ至ラシメタルモノハ次條ノ刑ニ處セラレハ

○第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ノ場合ハ人ヲ殺ノ意ナカリシキニシテ若シ殺意アリシキハ謀殺ノ刑ニ處セラレハシ

○第二節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

○第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品



ナ陸地ニ運搬セタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 傳染病流行ノ際ハ其地ト往復スルヲ禁シテ其蔓延スルヲ防ク然ルニ此豫防規則ニ反シ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸上クシタル者ハ本條ノ制裁ヲ受クルモノトス

○第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スルヲ知テ制止セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ船長其職務ニ反シ自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ之レヲ犯ス者アルヲ知テ制止セザリシキノ罪ヲ定メタリ

○第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○第二百四十九條 獸類傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 二百四十八條ハ傳染病流行地ヨリ他ノ地ニ出テタル者ノ刑ヲ定メ二百四十九條ハ獸類ノ傳染病流行ノ際其地ヨリ他ニ獻類ヲ出シタル者ノ刑ヲ定メタリ

○第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

○第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス 若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百

圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ設立スルニハ官ノ許可ヲ得サル可ラス蓋シ危險ノ恐レヲ以テナリ然ルニ此許可ヲ得ス設立シタルモノハ本條ノ刑ニ處セラル

○第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載セタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背セタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

(註) 本條ハ假令官ノ許可ヲ得テ危害品ノ製造所ヲ設立スルモ危害ノ豫防及ヒ健康ヲ保護ス可キ爲メノ規則アルニ之レニ違反シテ注意ヲ欠クモノ、刑ヲ定ム

○第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ハ殆ト無用ノ法文ニシテ過失殺傷ノ罪ニヨルヘキハ當然ノコトナリ

○第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

○第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 飲食物ヲ販賣スルモノハ常ニ不潔腐敗等健康ニ害ナキ様注意スルノ義務アルニ却テ之レニ人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ混和シタル飲食物ヲ販賣シタルモノハ本條ノ刑ニ處セラル

○第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



(註) 毒藥及ヒ劇藥ハ藥商ト雖モ醫師ノ証明アルニアラサレハ販賣買渡スヲ得サル等ノ規則アルニ之レニ違反シテ販賣シタル者ヲ罰スヘキ條文ナリ

○第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

○第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 醫師ハ人ノ身体生命ヲ左右スル貴重ナル職業ナルヲ以テ之レヲ開業スルニハ必ス官許ヲ得サル可ラサルニ私ニ許可ナク醫業ヲ爲シタルモノニハ相當ノ刑ヲ科セサル可ラヌ只タ注意スヘキハ本條ニ醫業トアルヲ以テ一度人ノ依頼ヨリ診察投劑スルモ罪トナラヌ必ス繼續シテ其業ヲ爲スヲ要ス

○第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シテ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ハ醫師過失ニヨリテ治療ヲ誤リタル場合ヲ定メタルモノニシテ殺意ナキナラニ勿論ナリ

第六章 風俗ヲ害スル罪

○第二百五十八條 公然猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 猥褻ノ所行トハ元ヨリ人ノ見ルニ忍ヒサル醜態ヲ現ハスノ謂ナリト雖モ必ス男女ノ

陰陽ニ關スル所爲ナルヲ要ス此所爲ニシテ本條ノ罪トナルニハ公然人ノ見ルヲ得ヘキ場所ニ於テ爲スヲ要スルナリ故ニ家内ニ於ケルト雖モ戸障子ヲ開キテ爲スハ此罪ヲ構成スヘシ

○第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四

圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ風俗ヲ害スル書籍圖畫其他猥褻ノ物品例ハ枕草子ノ如キモノヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ノ刑ヲ定ム故ニ自ラ所有スルモノレヲ公然陳列セサレハ其罪ヲナサス

○第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 賭博トハ偶然ノ勝負事ニ依テ金錢其他ノ財物ヲ授受スル所爲ヲ云フ故ニ一人ノ失フ所方サニ一人ノ得ル所ニシテ毫モ富ヲ増スヲナク徒ラニ職業ヲ爲スモノナキニ至ルヘシ而シテ本條ハ賭博ヲ誘引スルノ所爲即チ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招キ集メタル者ヲ罪セリ

○第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラズ賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒収ス

(註) 本條ハ賭博ヲ爲シタル者及ヒ其事ヲ知リテ房屋ヲ貸セタル者ト刑ヲ定メタリ而シテ此



賭博犯ハ現場ニアラサレハ罰スルヲ得サルモノニシテ其賭スル所ノ財物若シ飲食物ナ  
ルハ遊戯トシテ之レヲ罰セス其現場ニアル博器財物ハ之レヲ沒収スルモノトス

○第二百六十二條 賭物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六  
月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ富籤ヲ罰スルノ規定ナリ富籤トハ財物ヲ各醜集シ或ハ偶然ノ出來事ノ爲メ此  
財物ヲ失ヒ又ハ一定ノ財物ヲ得ルノ方法ニシテ之レ又射倖ノ刑ヲ得セシメ生業ヲ忘レシ  
ムルニ至ラシムルヲ以テ之レヲ興行シタルモノヲ罰セリ

○第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以  
下ノ罰金ニ處シ若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ宗教ヲ蔑如スルノ罪ヲ規定セリ而シテ第一項ハ神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ  
不敬ノ所爲アル者ノ刑ヲ定ム其所謂不敬ノ所爲トハ其禮拜所ノ屬スル信者ヲシテ感覺ヲ  
害セシメ信仰ノ自由ヲ妨クルヲ云フ故ニ言語ヲ以テスルモ舉動ヲ以テスルモ可ナリ  
只公然爲スヲ要スルノミ次ニ第二項ハ說教禮拜ヲ妨害スル者ノ刑ヲ定メタリ

○第七章 屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

○第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以  
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ死屍ヲ埋葬セスシテ毀棄セタル者ノ刑ヲ定メタリ

○第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮  
ニ處シ一圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以

下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ墳墓ヲ發キテ棺槨又ハ死屍ヲ掘出シタル者及ヒ其掘出シタル死屍ヲ毀棄シタ  
ルモノノ罪ヲ定ム

○第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ處  
斷ス

○第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

○第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ  
妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ一圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

○第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ  
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 此兩條ハ賣買ノ妨害ヲ爲ス罪ヲ定ム而シテ其妨害ヤ偽計又ハ威力ヲ以テスルモノニシ  
テ人ノ需用ニ欠ク可カラサル食品ナルハ其刑重ク糶賣又ハ入札ノ妨害ナルハ二百六  
十八條ノ刑ニ處セラルヘシ其刑輕シ之レ妨害ヲ爲スニ聊カ困難ナルヘキヲ以テナリ

○第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ



(註) 本條ハ農業工業ノ妨害ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ規定ニシテ同シク偽計又ハ威力ヲ用ユルヲ要スルナリ

○第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

(註) 此二條ハ雇人ト雇主トノ犯罪ヲ規定セリ而シテ雇人其賃錢ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變スルノ意ヲ以テ偽計威力ヲ用ヒ雇主其他ノ雇人ニ對シ妨害ヲ爲シタル者ハ二百七十條ニヨリ又雇主ヨリ雇賃ヲ減スルノ意ヲ以テ爲シタル者ハ二百七十一條ニヨリ處斷セラルヘシ

○第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價値ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ物品ノ價額ヲ昂低セシムルノ罪ヲ定ム而シテ其物品トハ穀類其他人ノ需用品ヲ云フモノニシテ虛偽ノ風説ヲ流布シテ其價ヲ昂低セシメタル者ヲ罰スヘキモノトセリ

### 第九章 官吏瀆職ノ罪

#### 第一節 官吏公益ヲ害スル罪

○第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セヌ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 官吏自己ノ管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セヌ又官吏ノ職務ヲ以テ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ本條ノ刑ニ處セラル此罪ハ必官吏ニアラサレハ犯スヲ得サルモノトス

○第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ニ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條及ヒ前條ハ共ニ爲サ、ルノ罪ニシテ兵權ヲ以テ鎮撫スヘキニ此處分ヲ爲サ、ルノ罪ヲ本條ニ於テ定メタリ

○第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 官吏ニ商業ヲ爲スヲ許セキハ利ニ走リ其地位ヲ損シ或ハ職權ヲ濫用シテ私利ヲ營ムノ弊ヲ生スルニ至ルヲ以テ之レヲ禁シタリ而ルニ此法禁ニ違反シテ商業ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ處セラル

#### 第二節 官吏人民ニ對スル罪

○第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利



ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
(註) 本條ハ威權濫用ノ罪ニシテ人民ヲシテ爲スノ權ナキヲ爲サシメ又ハ其爲スヘキヲ  
ヲ妨害シタル者ノ罪ナリ

○第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官吏其報告ヲ  
受テ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ保護ノ處分ヲ爲サ、ルノ罪ナリ例ハ現行犯ニシテ身體財産ヲ害スル犯人アル  
トノ報告ヲ受ケタルニ其職務アル官吏速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ルノ罪ナリ其職務アル官  
吏トハ豫審判事檢察官吏ナリ

○第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスレテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人  
ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

○第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスレテ囚人ヲ監禁シ若シハ囚人ヲ出獄セシム可  
キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 此二條ハ逮捕監禁ノ罪ナリ此罪ヲ犯スハ逮捕官吏ニ止ル逮捕官吏トハ司法警察官巡  
査憲兵ノミナラス逮捕ヲ命スルノ權アル裁判官檢察官ノ如キモノヲ云フ其逮捕監禁ニシ  
テ犯罪タルコトハ程式規則ヲ遵守セスレテナシタルヲ要ス故ニ逮捕又ハ監禁ス可ラサルニ

之レヲ爲シ或ハ相當ノ手續ヲ爲サスニテ逮捕監禁シタルモノハ二百七十八條ノ刑ニ處セ  
ラル其監禁スルコト十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ而シテ司獄官吏カ囚人ヲ監禁シ又ハ囚人ヲ  
放免スヘキニ放免セサリシ者ハ二百七十九條ニヨリ罰セラルト雖モ不注意過失ニ出ルモ  
ノハ罪ヲ爲サ、ルナリ

○第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ  
所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

(註) 逮捕官吏若シハ司獄官吏護送者ニシテ囚人ヲ待遇スニ苛酷ノ所爲ヲ以テシタルモ  
ノ罪ヲ本條ニ於テ定メタリ

○第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打  
創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

(註) 一本條ハ囚人ノ保護ヲ怠ルノ罪トス本條ノ罪ハ水火震災等ノ事變ノ中囚人ノ監禁ヲ  
解クノ任アル官吏過失懈怠ニヨリ監禁ヲ解カサリシ爲メ死傷ニ至リタルモ成ルモノニ  
シテ毆打創傷ノ各本條ニヨリ過失殺傷ヲ以テ論セサル旨ヲ定メタルモノナリ

○第二百八十二條 裁判官檢察官及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ  
又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス



因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ハ暴行及ヒ凌虐ノ罪ナリ而シテ暴行トハ腕力ヲ施シ毆打スルカ如キヲ云ヒ凌虐トハ飲食衣服ヲ屏居スルカ如キヲ云フ裁判官檢事及警察官被告人カ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ是等ノ所爲ヲ加ヘタルハ本條ニヨリ罰セラル因テ死傷ニ至ラシメタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ從フモノトス

○第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

(註) 本條ハ裁判官檢事理由ナク民事又ハ刑事ノ訴ヲ受理セス又遷延シテ審理セサルモノヲ罰スル條文ナリ

○第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ處分ヲ爲シタル者ハ一等ヲ加フ

(註) 本條ハ賄賂收受ノ罪ナリ而シテ此罪ノ成立スルニハ左ノ條件ノ具ハルヲ要ス  
一官吏タルノ資格ヲ有スルモノナルヲ  
二職務中ノ一處置ニ付キ囑託ヲ受ケタルヲ  
三現ニ賄賂ヲ受取り又ハ聽許シタルヲ

四賄賂ナルヲ知リタルヲ

其所謂賄賂トハ金錢又ハ財産ノミナラス總テノ利益満足ヲ得セシムルヲ云フ官吏依テ不正處分ヲ爲シタルハ一等ヲ加フ

○第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル者ハ一等ヲ加フ

(註) 前條ハ一般ノ官吏収賄シタル處分ニシテ本條ハ裁判官民事ノ裁判ニ關シテ收賄シタル者ノ處分ヲ定ム

○第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ被告人

ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス 其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シ反坐ス (註) 本條ハ裁判官檢察官刑事ノ裁判ニ關シテ收賄シタル者ノ刑ヲ定メ因テ被告人ヲ利シ又ハ害シタルニヨリ刑ヲ異ニス若シ枉斷ノ刑本條ノ刑ヨリ重キハ之レヲ反坐セシムル

モノトス



○第二百八十七條

二百六十四

裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ從カヒ又ハ怨ヲ狹サミ  
被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 裁判官檢察官收賄セサルモ情ニ徇ヒ或ハ怨ヲ狹ミ被告ヲ利シ又ハ害シタルハ  
前條ノ刑ニ處ス

○第二百八十八條

前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其  
價ヲ追徴ス

(註) 本條ハ附加刑處分トシテ其官吏ノ受取タル賄賂ヲ沒收シ若シ其費消シタル者ハ價額  
ヲ追徴スヘキ旨ヲ定メタルナリ

○第二節 官吏財産ニ對スル罪

○第二百八十九條

官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ官ノ文  
書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ官吏ノ資格ヲ有スル者自ラ監守スル金穀物件ヲ竊取シタル罪ヲ定ム其重キハ  
自ラ監守セル物ヲ竊取スルモノナルヲ以テナリ因テ文書帳簿ヲ増減變換毀棄シタル時ハ  
各本條ニヨリテ論スヘシ

○第二百九十條

租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上  
四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 人民ヨリ金穀ヲ徵收スルノ官吏正數外ニ徵收シタル罪ヲ定メタリ之レ不正ノ私利ヲ

營マントスルモノヲ防クニアリ

○第二百九十一條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視  
ニ附ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

○第一章 身體ニ對スル罪

○第一節 謀殺故殺ノ罪

○第二百九十二條

豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス  
(註) 本節ハ殺人罪ノ規定ニシテ本條ハ謀殺ノ罪ヲ定メタリ抑モ殺人罪ハ要スルニ權利ナ  
クシテ人ノ生命ヲ奪フ所爲ナリ故ニ正當防衛又ハ死刑執行官吏ノ人ヲ殺スモ此罪ヲ爲ス  
モノニアラス左ニ其要點ヲ示サンニ

一 生命アル人ニ對スルニ非ラキレハ此罪成立スルコトナシ故ニ死屍ヲ切り又ハ生命アルモ  
獸畜ヲ殺スカ如キ殺人罪ヲササルナリ

二 殺人罪タルニ死亡ハ其所爲ノ直接結果タルコトヲ要ス故ニ殺意ヲ以テ一刀ヲ加ヘタルモ  
死ニ至ラス後疾病ノ爲メ死亡シタル如キハ未遂犯トシテ罰スルヲ得ルモ殺人罪既遂ト  
スルコトヲ得サルナリ

三 殺人罪ハ有意犯ナルヲ以テ殺意アルヲ要ス故ニ生命ヲ失ハシムルノ意アレハ足ル若シ  
此意ナカランカ毆打致死又ハ過失殺トナルヘシ



而ノ本條ハ謀殺罪ヲ定ム謀殺トハ豫メ謀テ人ヲ殺スノ謂ニシテ人ヲ殺スノ準備ヲ爲シ  
實行カ熟考ニ出タルヲ要スルナリ

○第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

(註) 本條ハ毒殺罪ノ規定ナリ即チ毒物ヲ用テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論セラレ、旨  
ヲ定メタルナリ

○第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

(註) 本條ハ故殺罪ノ規定ナリ故殺トハ一時ノ感敵ニ出テ人ヲ殺スヲ云フ故ニ故意ヲ以テ  
スルヲ要スルカ故ニ生命ヲ失ハシムルノ意ヲ要セス苟モ自己ノ行フ處ノ所爲ニシテ必然  
人ノ生命ヲ失ハシムヘキコトヲ知テ之レヲ爲シテ以テ足レリトス

○第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(註) 本條ハ慘刻殺ノ規定ナリ支解折割トハ腕ヲ折り股ヲ割クカ如キヲ云フ故ニ此ノ如ク  
慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺セシモノハ死刑ニ處セラレ

○第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故  
殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(註) 本條ハ罪ヲ犯ニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シタル罪ヲ免ル、爲メ人ヲ故殺シタルモノ  
ハ謀殺ノ刑ニ處ス而シテ其罪トハ重罪又ハ輕罪ニ限ルモノニシテ違警罪ナルトハ本條ニヨ  
ルヲ得ス

○第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ  
論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

(註) 人ヲ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ其豫メ謀ルト否トニヨリ謀殺又ハ故殺  
ヲ以テ論ス本條ノ場合ニ於テモ故意ノ要スルハ勿論ナリ

○第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

(註) 本條ハ誤殺ノ規定ナリ誤殺トハ人違ノ殺人ニシテ例ハ甲ヲ謀殺又ハ故殺シタルニ誤  
テ甲ナリト信シタリシ人ハ乙ナリシ場合ノ如キヲ云フ

### ○第二節 毆打創傷ノ罪

○第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

(註) 本條ハ毆打致死罪ノ規定ナリ即チ故意ヲ以テ毆打シテ創傷シ因テ死ニ致シタル罪ナ  
リ故ニ殺意ナキヲ要シ且ツ過テ毆打シタル如キハ罪トナラス抑モ此罪ハ身体ニ危害ヲ加  
フルノ罪ナレ其手段毆打ニアラサレハ罰スルヲ得サルノ不都合ヲ生ス

○第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折り及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗

シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス 其一目ヲ瞎シ一耳ヲ  
聾シ又ハ一肢ヲ折り其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處  
ス

○第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラ



シメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス 其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本二條ハ毆打ヲテ創傷ノ結果如何ニヨリ其刑ヲ異ニシテ處分スヘキ旨ヲ定メタルノミ

○第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

(註) 本條ハ毆打創傷スルニ豫メ謀テ爲シ其結果休業癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ各一等ヲ加フヘキモノトノ規定ナリ

○第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 毆打創傷ノ原因重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シタル罪ヲ免ル、爲メナルキハ前條ト全シク一等ヲ加フヘキモノトス

○第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

(註) 本條ハ甲ヲ毆打シ誤テ乙ヲ創傷シタル如キ甲ナリト信シテ毆打創傷シタルコトヲアラス乙ナリシキノ如キ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ前數條ノ刑ニ處セラレ

○第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自

ニ其刑ヲ科ス 若シ其毆打テ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス 但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

○第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタルモノ、刑ニ一等ヲ減ス

(註) 此兩條ハ二人以上共ニ人ヲ毆打シタル場合ヲ定メ共ニ毆打創傷シタルキハ各々其傷ノ輕重ニ從ヒ刑ヲ科ス、雖モ若シ傷ノ輕重ヲ知ル能ハサルキハ重傷ノ刑ヨリ一等ヲ減シテ罰スルモノトス然レモ教唆者ハ減刑セラレ、モノニアラス其毆打ヲ幫助シテ傷ヲ成サシメシ者ハ一等ヲ減セラレ

○第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ毆打ニアラサルモ毆打創傷ニ準スヘキ場合ヲ定ム即チ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用テ人ヲ疾苦セシメタル者ハ三百一條ト同一ニ論スヘキモノトス

○第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シ危害ニ陷シ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

(註) 本條ハ人ヲ詐稱誘導ノ危害ニ陷シ疾病死傷ニ至ラシメタルモノヲ毆打トシテ罰スル旨ヲ定メタリ其毆打タルニハ人ヲ殺スノ意ナカリシヲ要スルナリ

第二節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪



○第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス 但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

(註) 本條ハ挑發ニ關スル宥恕ノ規定ナリ抑モ挑發トハ暴行ヲ受ケタル爲メ憤激シタルヨリ出タル所爲ニシテ左ノ要件ノ具フルヲ要ス

一 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケタル

二 其暴行ハ不正ニ出タル

三 暴行ハ自ラ不正ノ所爲ニヨリ招キタルニ非ラサル

四 其暴行ノ爲メ怒ヲ發シ直ニ殺傷ヲ爲シタル

以上具備スルハ二等又ハ三等ヲ減セラル

○第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ル能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

(註) 本條ハ二人以上毆打創傷シ其手ヲ下スノ前後ヲ知ル能ハサルハ其罪ヲ宥恕スルヲ得ル旨ノ規定ナリ

○第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ス

(註) 本條ハ本夫姦婦姦夫ヲ殺傷スルモ左ノ條件ヲ具フルハ宥恕シテ其罪ヲ二等又ハ三等ヲ減スル旨ノ規定ナリ

一 姦通現行ナル

二 姦所ニ於テ直ニ殺傷スル

三 本夫先ニ姦通ヲ縱容セサル

ハ宥恕ノ限リニアラサルナリ

故ニ本夫姦通ヲ知リタルハ又ハ豫メ謀テ殺傷シタル

○第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶墻壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

(註) 本條ハ晝間故ナク即チ權利ナキニ人ノ住居セル邸宅ニ入り又ハ門戶墻壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之レヲ殺傷シタルモノハ其罪ノ宥恕スト若シ夜間ナラソカ

正當防衛トナル

○第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

(註) 本條ハ讀テ字ノ如ク解シ易ケレハ説明セス

○第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシテ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

(註) 本條ハ正當防衛ノ條件ヲ定メタリ抑モ正當防衛トハ危急ナル不正ノ侵襲ニ對シテ己レノ權利ヲ防衛スル爲メノ權利ノ實行ナリ故ニ左ノ條件ヲ要ス

(一) 身體生命ヲ害セラレントシタル



(二) 殺傷スルノ外暴行ヲ避クルノ道ナキト 故ニ暴行ノ不意ニ出テ且危害ノ現在ニ切迫  
セタルヲ要ス

(三) 暴行ハ不正ナルト故ニ正當ノ攻撃ニ對シテハ防衛權ナシ例ハ官吏カ法律規則ヲ執行  
スルカ如キハ防衛權ナキナリ

(四) 暴行ハ不正ノ所爲ニヨリテ招キタルコト非ラサルト

以上條件ヲ具ヘサレハ無罪ナルトテ得ス其條件ヲ要スル蓋シ權利ヲ侵害スル者アルトハ  
公力ノ保護ヲ受ケサル可ラス決シテ復讐的ニ反撃スルヲ得ス然レモ危害ノ目前ニ迫リ公  
力ヲ頼ムノ暇ナキニ於テハ已ムテ得ス自己ノ腕力ヲ以テ其害ヲ防止スルヲ許サ、ル可  
トハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトト問ハス無罪ナリ若シ止ムトテ得サルニ非  
ラズシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ害ノ止ミタルニ拘ハラヌ勢ニ乗シテ暴行人ヲ害シタルト  
ハ其罪ヲ宥恕スルヲ得ルモ無罪トスルヲ得ス三百十六條ノ規定ナリ

○第三百十五條 左ノ諸條ニ於テ已ムトテ得サルニ出テ人ヲ殺傷セタル者ハ其罪ヲ論ゼス  
一 財産ニ對シテ放火其他暴行ヲ爲シタル者ニ防止スルニ出タル時 二 盜犯ヲ防止セ又ハ盜

賊ヲ取返スルニ出タル時 三 夜間故ナク人ノ住居タル邸宅ニ入り若クハ門戸墻壁ヲ踰越  
損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

(註) 本條ハ財産ニ對スル防衛權ノ規定ナリ本條ニヨレハ其場合ヲ限レリ即チ財産ニ放火

其他ノ暴行ヲ爲スモノアルト又ハ盜犯ヲ爲スモノアルト若シクハ夜間權利ナク邸宅ニ入  
リ又ハ門戸墻壁ヲ踰越損壞スル者アルト是等ノ害ヲ防止スルニ出テ又ハ盜賊ヲ取返スル  
ニ出テ其加害者ヲ殺傷シタルモノハ無罪トセリ

○第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムトテ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加  
ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在  
ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

(註) 本條ハ三百十四條ノ說明ニテ明ナリ

○第四節 過失殺傷ノ罪

○第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以  
上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本節ハ過失殺傷ノ罪ナリ過失殺傷トハ不注意又ハ疎虞ニヨリ人ヲ殺傷スルヲ云フ故  
ニ過失罪ハ無意即チ意思ナク不注意ヨリ人ヲ死ニ致シ又ハ傷ケタルモノナリ元來無意ノ  
モノハ罰セサルヲ原則トスルモ身体性命ノ貴重ナル物ニ對シテノミ其不注意ヲ責ムルナ

○第三百十八條 過失ニ因リ人ヲ創傷シ癱篤疾ヲ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
○第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰

金ニ處ス



(註) 此兩條ハ過夫創傷ノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ

○第五節 自殺ニ關スル罪

○第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

(註) 自殺ハ其自殺者死スルヲ以テ罰スルヲ得サルナリ唯自殺ヲ教唆シタル者及ヒ依頼ヲ受ケテ手ヲ下シタル者并ニ補助シタル者ヲ罰スルノミ素ヨリ自殺者ヲ罰スルノ明文ナキヲ以テ未遂ノ罪ハ本人ヲ罪セスシテ他人ヲ罰スルノ不權衡ヲ生ス

○第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

○第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

(註) 本條ハ自ノ利益ノ爲メニ自殺ヲ教唆シタル者ノ罪ヲ定メタリ

○第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

(註) 本節ハ逮捕監禁ノ罪ニシテ住居ノ撰定自由權ヲ害スル罪ナリ逮捕トハ直接ニ腕力ヲ用テ身体ノ自由ヲ拘束スルヲ云ヒ監禁トハ一室又ハ一所内ヲ限リテ他ニ出ルコト能ハサラシムルヲ云フ故ニ逮捕監禁スルノ權利ナク之レヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ處セラレ

○第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ不正ニ監禁シタルノミナラス或ハ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ奪ヒ其他苛刻ノ所爲ヲ爲シタル者ノ刑ヲ定ム

○第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコト怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 人ヲ逮捕監禁シ因テ疾病死傷ニ至ラシメ又ハ水火震災ノ際其禁ヲ解クコト悉ク死傷ニ至ラシメタル者ハ本兩條ノ刑ニ處セラレ

○第七節 脅迫ノ罪

○第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セシト脅迫シタル者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞却掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ脅迫ノ罪ヲ定ム扱テ脅迫トハ人々危害ヲ蒙ラシムヘキコト通知シ人ヲシテ心ニ安セサラシムルヲ云フ其危害トハ殺人又ハ住家ノ放火毆打其他ノ暴行財産ノ放火毀壞却掠之レナリ



○第二百二十七條

兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

(註) 本條ハ加等ノ情狀ヲ定メタリ即チ人ヲ脅迫スルニ兇器ヲ以テスル者ハ被脅迫ヲ恐ル

○第二百二十八條

視屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

(註) 本條ハ親族ニ害ヲ加ヘンコトヲ以テ脅迫スルノ罪ナリ親族間ノ情トシテ恐怖スルハ當

○第二百二十九條

此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論

ス

(註) 脅迫ヲ待テ一ノ犯罪トスルハ被脅迫者ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメ安心スル能ハサラ

シムルカ故ナリ故ニ其果シテ恐怖シタルヤ其一笑ニ附シタルヤハ被脅迫者自身又ハ親族

○第八節 墮胎ノ罪

○第三百三十條

懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮

○第三百三十一條

藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致

シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 此二條ハ墮胎ノ罪ヲ定メ三百三十條ニ於テハ自ラ墮胎シタル者ヲ三百三十一條ハ婦

ニ處ス

女ヲシテ墮胎セシメタル場合ヲ定メタリ其墮胎トハ懷胎シタル孕子ヲ藥物其他ノ方法ヲ

以テ母ノ胎内ヨリ離脱セシメ其生命ヲ失ハシムルヲ云フ故ニ墮胎罪ハ胎兒ニ對スル罪ナ

リ而シテ胎兒ノ生命ヲ奪フ罪ナルモ安全ニ生出スルヤ否ヤ確實ナル人ナルヲ以テ其刑ヲ輕

クセリ

○第三百三十二條 醫師隱匿又ハ藥商條前ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

○第三百三十三條

墮胎ノ罪ヲ醫師隱匿藥商カ犯シタル者ハ一等ヲ加フト蓋シ是等ノ人ハ其職業上此罪

ヲ犯スコト最モ容易ナルカ故ナリ

○第三百三十四條

墮胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ

重禁錮ニ處ス

○第三百三十五條

墮胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ

二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條モ承諾ナキ場合ナリ即チ墮胎セシムルノ意ナキモ懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打

其他ノ暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ノ罪ヲ定メ若シ墮胎セシムルノ意有リシハ

○第三百三十六條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本

條ニ照シ重キニ從テ處斷ス



(註) 墮胎罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニヨリテ處斷スト定メタリ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

○第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス因テ生沿スルコト能ハサル老若疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

(註) 本條ハ幼者及ヒ自ラ生活スル能ハサル老若疾病者ニ遺棄スル罪ヲ定ム抑モ遺棄トハ必スシモ一所ヨリ一所ニ移シ棄ルノ謂ニアラス扶助ヲ爲スノ義務アル者之レヲ扶助セズ故ラニ活路ヲ失ハシメタル所爲ヲ云フ故ニ八才以上ナル幼者ハ自活ノ道ナキコトアラサレハ此罪ヲ爲サ、ルナリ

○第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闇無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條ハ寥闇無人ノ地ニ遺棄シタル者ノ罪ヲ定メ之レヲ重ク罰セリ蓋シ人ノ扶助ヲ仰ク一層困難ナル地ニ遺棄スルモノナレハナリ

○第三百三十八條 給科ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前三條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

(註) 本條ハ遺棄罪ノ加算ノ狀情ヲ定ム即チ給料ヲ得テ人ノ依託ニヨリ保養スル者ハ其保養ノ義務重キニ拘ハラズ遺棄シタルモノナルヲ以テナリ

○第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

(註) 本條ハ遺棄ヨリ生シタル結果ニヨリ其刑ノ輕重ヲ定メタリ

○第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 若シ疾病

ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セズ又ハ申告セサル者亦同シ

(註) 本條ノ罪ハ扶助ノ義務ナキ者ト雖モ成立スヘシ即チ遺棄セラレタル幼者老疾者又ハ疾病ニヨリ昏倒スルモノアルコトヲ知テ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサルノ罪ニシテ爲サ、ルノ罪ナク但シ自己ノ所有地又ハ自己ノ管守スヘキ地内ニアルコトヲ要スルナリ故ニ他人ノ地又ハ他人ノ看守地ニアルキハ之レヲ扶助セズ又官ニ申告セサルモ罪トナラサルナリ

第十節 幼者畧取誘拐スル罪

○第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



(註) 此兩條ハ幼者ヲ略取誘拐シテ目ヲ藏匿シ又ハ他人ニ交付シタル者ノ刑ヲ定ム唯年齡ノ多少ヲ區別シタルノミ其略受誘拐トハ或ハ暴行ヲ用ヒ或ハ偽計ヲ施コシ奪取シ又ハ誘出スルヲ云フ

○第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ収受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス  
(註) 本條ハ略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自家ノ僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ収受シタル者ハ一等ヲ減スルモノトス

○第三百四十四條 前數條ニ記載シタル者ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ  
(註) 本節ノ罪ハ被害者又ハ親族ノ告訴ヲ待テ罪ヲ論スル所以ノモノハ蓋シ略取誘拐ノ如キハ本人又ハ親族ノ名譽ヲ害ス大ナルヲ以テ寧ロ被害者ノ意ニ任スルヲ以テ可ナリトシタルモノナリ然レモ略取誘拐セラレタル幼者式ニヨリテ婚姻シタルトハ告訴スルモ其効ナキナリ

○第三百四十五條 二十歳ニ滿タル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
(註) 若シ幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス此場合ニ於テハ被害者親族ノ告訴ヲ要セサルナリ蓋シ其害大ニシテ國家ノ体面ヲ傷クルヲ以テナリ

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

○第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所爲ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
(註) 本條ハ十二歳未滿ノ男女ニ對シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム

○第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
(註) 本條ハ十二歳未滿ノ男女ニ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ノ刑ヲ定メタリ

○第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲從ニ處ス  
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ強姦シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス  
(註) 本條ハ強姦ノ罪ノ規定ナリ抑モ姦淫罪ハ別テ強姦和姦トス而シテ和姦ハ罪セサルヲ原則トシ只次條ニ於テ罰スルノミ強姦トハ如何婦女ノ承諾ナキニ姦スルノ謂ニシテ暴行脅迫ヲ以テ姦シタルトハ勿論強姦タルナリ假令ヒ是等ノ手段ナキモ藥酒ハ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタルモノモ承諾ナキニ爲シタルヲ以テ本條ハ強姦ヲ以テ論セリ

○第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス



(註) 本條ハ和姦ニシテ罰スヘキ場合ヲ定ム即チ十二歳未満ノ幼女ヲ姦淫シタルモノハ和姦ト雖モ罰ス蓋シ十二歳未満ノ幼女ニアリテハ身体精神ノ發達充分ナラサル爲メ之レヲ害スル大ナルヲ以テナリ

○第三百五十條 前條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
(註) 本條ハ前數條ノ罪ハ被害者又ハ其親族ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキ旨ヲ定ム之レ此種ノ犯罪ハ直接ニ被害者又ハ親族ノ名譽ヲ害スル大ナリト雖モ一家内ノ醜聞ニシテ之レヲ公ニスルハ却テ其名譽ヲ害スルノ恐ナキ能ハス之レヲ以テ公ニスルト秘スルトノ自由ヲ與ヘタルナリ

○第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ依テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 但強姦ニ依テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(註) 本條ハ猥褻姦淫ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ至ラシメタル者ノ刑ヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

○第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ淫行勸誘ノ罪ヲ定ム即チ淫行ヲ勸誘シ媒合シタル者ナリ然レモ十六歳未満ノ男女ナルヲ要ス十六歳以上ナラシカ知慮自ラ備リ是非ヲ判スルノ能力モ從テ全キニ近キ

ナリテ他人ノ勸誘ノ爲メ品行ヲ亂ルカ如キヲナカルヘケレハナリ

○第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ此條ノ罪ハ本婦ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナ

(註) 本條ハ有夫姦罪ノ規定ナリ而シテ本罪構成ノ元素四ケアリ  
一 夫婦ノ事實アルコト即チ婚姻ノ式ヲ行ヒ届出ヲ爲シタルヲ要ス  
二 有夫ノ婦本夫以外ノ男子ト姦シタルコト  
三 本夫姦通ヲ縱容セサルコト  
四 本夫ノ告訴アルコト 理由ハ三百五十條ニ説明セリ  
抑モ有夫ノ婦他人ト姦通スルハ其貞操ヲ破リ夫ノ名譽ヲ害シ血統ヲ亂リ社會ノ風儀ヲ害スルヲ以テ之レヲ罰トシテ論スルナリ

○第三百五十四條 配偶者アル者重シテ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ重婚罪ノ規定ナリ重婚トハ適法ノ婚姻未タ解除ニ至ラズシテ再ヒ婚姻ヲ爲スノ所爲ヲ云フ故ニ有夫ノ婦ニシテ本夫以外ノ男子ト結婚即チ婚姻ヲ爲スカ又ハ有婦ノ夫本婦以外ノ者ト結婚スルヲ以テ成ル但シ婚姻ノ式ヲ行フヲ以テ犯罪成立スルモノトス

○第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

○第三百五十四條 配偶者アル者重シテ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ重婚罪ノ規定ナリ重婚トハ適法ノ婚姻未タ解除ニ至ラズシテ再ヒ婚姻ヲ爲スノ所爲ヲ云フ故ニ有夫ノ婦ニシテ本夫以外ノ男子ト結婚即チ婚姻ヲ爲スカ又ハ有婦ノ夫本婦以外ノ者ト結婚スルヲ以テ成ル但シ婚姻ノ式ヲ行フヲ以テ犯罪成立スルモノトス

○第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪



○第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ誣告罪ノ規定ナリ抑モ誣告ナルモノハ不實ナルヲ知テ人ヲ危害ニ陷ル、爲メ犯罪人トシテ官ニ告訴告發スルノ所爲ヲ云フ故ニ第一告訴告發ノ手段ニヨル、第二事實ニ反シ其不實ナルヲ知リテ爲ス、第三其人ヲ危害ニ陷ルノ故意アルヲ三條件ヲ要ス而此罪ハ二百二十條ノ偽証罪ト全シク其處分スヘキモノトス

○第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

(註) 本條ハ誣告ヲ爲スモ被告人ノ推問ヲ始メサル前自首スルモ其害ヲ未然ニ防クテ政略ヨリ免刑スヘキ旨ヲ定ム

○第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

(註) 誣告ニヨリ被告人刑ニ處セラレタルハ二百廿一條二百廿二條ノ例ニヨリテ反坐ノ刑ニ處スル旨ヲ定ム

○第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス 二書類書圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ誹毀ノ罪ヲ定ム誹毀トハ人ノ惡事醜行ヲ摘發シ公然ノ演說又ハ書類書圖ノ公布或ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀スルノ所爲ヲ云フ故ニ苟モ人ノ名譽ニ干スルヲ公ニシテ其人ノ名譽ヲ害シタル者ハ其事實ノ有無ニ論ナク此罪ヲ構成スト雖モ其手段ハ必ス公然即チ公衆ノ聞キ得ヘキ演說書類書圖ノ公布雜劇偶像ノ所爲タルヲ要ス

○第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非レハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

(註) 誹毀罪ニ於テハ其事實ノ有無ヲ問ハサルヲ原則トスレモ死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔即チ不實ノヲ以テシタルモニアラサレハ罪セサルナリ

○第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因テ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

(註) 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニヨリ委託ヲ受ケタル者其穩私ヲ他ニ泄ラシテ罪トナルナクハ實ニ世人ノ信用ヲ濫用スルノ害大ナリト云フヘシ之レ本條ニ罪トセン所以ナリ然レモ裁判所ノ呼出ニヨリ事實ヲ陳フルハ罪ト



ナラス

○第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス

(註) 本節ノ罪モ親告罪ナル旨ヲ定ム蓋シ然ラズンハ益本人ノ不名譽ヲ世ニ公ニスルノ害アルヲ以テナリ

○第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

○第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス 其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

○第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

○第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(註) 凡ソ人タル者其尊親屬ヲ榮敬スヘキ本分アルニ之レニ對シ犯罪ヲ爲スアラハ則チ之レヲ他ノ普通人ニ對スルニ比スレハ罪狀甚タ重キハ勿論ノコトナルヲ以テ總テ之レヲ普通ノ場合ヨリ重ク罰セリ而シテ此罪ハ子孫ニアラサレハ成ストクテ得ス子ハ嫡子養子庶子孫ハ

曾玄孫外孫モ包含ス又父母ノ内ニ繼父母養父母モ包含スルナリ

○第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但シ其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

(註) 祖父母父母ニ對スル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス然レモ祖父母父母タルコトヲ知ラスコトヲ犯シタルハ然ラサルナリ

○第二章 財産ニ對スル罪

○第一節 竊盜ノ罪

○第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條以下竊盜罪ノ規定ナリ抑モ竊盜トハ不正ニ領得スルノ意ヲ以テ他人ニ屬スル物件ノ占有ヲ奪フノ所爲ヲ云フ故ニ自己ノ所有物又ハ何人ノ所有ニモ屬セサル物ハ之レヲ取ルモ罪ヲ爲サス又自己ノ有トナスノ意ナカラシ平又罪トナラス而シテ竊盜罪ハ必ス他人ノ承諾ナク其物ノ占有ヲ奪フコトヲ要ス若シ承諾アルカ權利アルハ罪トナラサルナリ元ノ承諾盗ハ他人ノ占有ヲ奪フノ所爲ナルヲ以テ自己ノ占有内ニアルハ他人ノ物ト雖モ竊盜罪トラス受害消費罪トナルヘシ且ツ占有ヲ奪フニハ其物ノ有形動産タルコトヲ要スルハ勿論ナリ

○第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮



ニ處ス

(註) 本條ハ變災竊盜ノ規定ニシテ此場合ハ犯スニ易ク防クニ難サヲ以テ此變ニ乘シテ盜ヲ爲ス其狀實ニ重シ之レ重ク罪シタル所以ナリ

○第三百六十八條 門戶墻壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

(註) 財物ノ侵掠ヲ防ク爲メ設ケタル門戶墻壁ヲ踰越シ損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ侵入シ盜ヲ爲ス其狀普通ノ竊盜ニ比シテ重キヲ以テ本條ニ於テハ前條ト同一ニ罰スヘキモノトセリ

○第三百六十九條 二人以下共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

(註) 二人以上共謀シテ竊盜ヲ爲スハ其人員多キカ故ニ彌犯罪ヲ容易ナラシムルヲ以テ一等ヲ加ヘ處分スヘキモノトス

○第三百七十條 兇器ヲ攜帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
(註) 本條ハ持兇器竊盜ナリ兇器トハ人ニ危害ヲ加フルヲ得ヘキ器具ヲ云フト雖凡刀劍銃鎗ノ如キ性質上ノ兇器タルヲ勿論ナリ持兇器竊盜ヲ重罪トシタルハ蓋シ犯人兇器ヲ携帶シタルハ臨時暴行ヲ爲サントスルノ意已ニ存シ被害者ノ爲メ危險甚タ大ナルヲ以テナリ

○第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖凡典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ依リ他人ノ

看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

(註) 本條ハ盜罪ノ例外ヲ定メ自己ノ物ヲ竊取スルモ竊盜ヲ以テ論スヘキ場合ヲ定ム即チ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニヨリ他人ノ看守シタル之レヲ竊取スルニアリ之レ假令自己ノ所有物ナルモ他人ノ占有中ニアルモノナルヲ以テ竊盜ニ準シタルナリ

○第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼潮海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

○第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス  
(註) 此三ヶ條ハ竊盜罪ニシテ其罪輕キ場合ヲ定ム蓋シ山林田野牧場ニ於テ竊盜ヲ爲スモノハ侵入ヲ防クヘキ外圍アリ又ハ人ノ看守スル處ニ於テ財物ヲ竊盜スル番ニ比スレハ其

背徳ノ情大ニ怨スヘキ點アルヲ以テナリ

○第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(註) 本條ハ未遂犯ヲモ罰スル旨ヲ定メタルモノニシテ説明ヲ要セス

○第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス



(註) 本條ハ監視ニ付スル旨ノ規定ニシテ讀テ字ノ如シ

○第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス若シ他人共ニ犯シ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

(註) 本條ニ規定セル者ノ間ニ於テハ互ニ其財産ヲ竊取スルモ法律ハ之レヲ罰セス之レ是等ノモノノ罪ヲ問ハンカ却テ一家ノ平和ヲ破リ家ニ風波ヲ起スニ至ルヲ以テナリ然レモ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論セラルヘシ

○第二節 強盜ノ罪

○第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

(註) 強盜トハ暴行ヲ用ヒ或ハ脅迫ヲ施シ他人ノ財物ヲ強テ奪ヒ取ルノ所爲ヲ云フ故ニ竊盜罪ト異ルハ唯タ其手段ノ暴行脅迫ニ出ルト否トコアルノミ

○第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ 一二人以上共ニ犯シタル時 二凶器ヲ携帯シテ犯シタル時

(註) 本條ハ強盜加重ノ狀情ヲ定メタリ即チ竊盜罪ノ條ニ於テ説明シタル如ク二人以上共ニ犯シタル時及ヒ兇器ヲ携帯シテ犯シタル時之レナリ其理由等宜シク參照スヘシ

○第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

(註) 強盜人ヲ傷シ又ハ死ニ致シタル者ノ刑ヲ定ム而シテ本條ノ場合ハ過失殺傷ヲ云フコアラズ又殺傷ノ故意アルヲ要セス暴行ノ所爲ニシテ有意ナルヲ要スルノミ

○第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(註) 本條ハ強盜ノ資格アルモノ強姦ヲ爲シタル者ノ刑ヲ定ム之レ強盜姦々婦女ヲ強姦スルコトアルヲ以テ特別ノ刑ヲ定メテ重ク罰セリ茲ニ注意スヘキハ強盜ヲ主トシテ犯シタル場合ニ限ルコト之レナリ

○第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

○第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

(註) 此兩條ハ強盜ニ準スヘキ場合ヲ定ム即チ竊盜ト雖モ其奪取シタル財物ノ取返ヲ拒ク爲メ暴行脅迫ヲ爲シタル者及ヒ藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメテ財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論スヘキモノナリ

○第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(註) 本節ノ罪ハ重罪ナレモ減輕ニヨリ輕罪ノ刑ニ處スルコト雖モ罪質重罪ナルヲ以テ監視ニ付スヘキハ當然ノ規定ナリ



○第三節 遺失物理藏物ニ關スル罪

○第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セザル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ノ罪ハ遺失物及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セサルカ又ハ官署ニ申告セサルニヨリテ成立ス而シテ遺失物トハ人ノ保管ヲ脱々タル物ニシテ何人ノ占有ニモ屬セサルモノナレハ必ズ他人ノ所有物ナルコトヲ要スルハ勿論藏匿トシテ罰スルニハ其拾得ノ日ヨリ五日ヲ經過セサレハ犯罪成立セサルナリ次ニ漂流物トハ河海ノ遺失物ト心得テ可ナリ

○第三百八十六條

他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

(註) 埋藏物トハ偶然ニシテ地中ヨリ埋設セル物件ヲ發見スルヲ云フ故ニ埋藏物ヲ掘取ルノ意ニ出タルハ竊盜罪タルモ此罪ヲ爲サス而シテ本條ノ罪ヲ爲スニハ必ズ他人ノ所有地内ニ於テ掘得テ隱匿シタルコトヲ要ス

○第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

(註) 本節ノ罪モ盜罪ト同シク三百七十七條ニ規定セル親屬ニ係ルハ其罪ヲ論セサルモノトス

○第四節 家資分散ニ關スル罪

○第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ債者ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス 情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若シハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

(註) 本條ハ債權者ヲ害スルノ所爲アリタル者ヲ罰スルノ條規ナリ而シテ本條ノ家資分散ノ際トハ分散ニ言渡テ受ケタルトノミナラズ分散ノ事實ヲ生スルニ至リタルハ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ債權ヲ増加シタル者及ヒ其事ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若シハ其世話ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ處セラレハシ

○第三百八十九條 家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若シハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シテ債權者ヲ害セントスルコト往々アリ其家資分散ノ際此所爲アリタル者又ハ分散決定後或一人又ハ數人ノ債權者ニ辯濟シテ他ノ債權者ヲ害シタル者ハ本條ヲ以テ論ス

○第五節 詐欺取財罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

○第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(註) 本條ハ詐欺取財ノ罪ヲ定ム詐欺取財トハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ証書



類ヲ騙取スルノ所爲ヲ云フ而ノ欺罔トハ有ルヲ無シトシ無キヲ有トシテ人ニ疑惑又ハ錯誤ヲ生セシムルヲ云フ又恐喝トハ其手段ヲ問ハズ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムルヲ云フ故ニ此所爲ヲ以テ他人ノ財物又ハ証書類ヲ騙リ取りタル者ハ本條ノ刑ニ處セラレ若シ詐欺ヲ行ハントシテ因テ官ノ文書ヲ偽造増減變換シタル者ハ二百三條以下ノ各條ニ依テ其罰ヲ論スヘシ

○第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ証書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

○第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(註) 此兩條ハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキ場合ヲ定ム即チ欺罔恐喝ノ所爲ナキモ知識淺キ幼者又ハ精神錯亂シタル即チ狂氣シタル人ヨリ財物証書類ヲ騙取リタル者及ヒ物ヲ賣却又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽リテ交付シタル者ハ之レナリ

○第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス 自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタル者ハ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

(註) 本條ハ冒認罪ヲ定ム冒認罪トハ他人ノ財物ナルヲ知リ特ニ我財物ナリト詐リテ取引スルノ所爲ヲ云フ故ニ之レハ所有者トノ關係上ヨリ云フニアラス其相手方トノ關係上ヨリ云フモノナリ故ニ假令自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物トナシタルモノヲ他人ニ賣渡シ又ハ讓與シ若クハ重子テ抵當典物トナシタル者モ全一ニ論セラル然レモ之レ一種ノ詐欺罪ナレハ必ス其事ヲ欺キ隱シテ爲シタルヲ要スル勿論ナリ

○第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ刑ニ處ス (註) 別ニ説明スルノ要ナシ

○第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(註) 本條ハ受寄財物費消ノ罪ナリ刑法ニ所謂受寄財物トハ不正ノ方法ニアラスシテ他人ノ財物ノ占有ヲ得タルノ謂ニシテ必スシモ委託アルヲ要セサルナリ故ニ委託ヲ受ケタル金額物件ハ勿論借用物典物ト雖モ承諾ナク又ハ權利ナクシテ消費シタルモ此罪ヲ成ス而シテ消費トハ如何所有者ニ還付スル能ハサルノ地位ニ至ラシムルヲ云フ若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アルモハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキハ當然ナリ

○第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス (註) 自己ノ所有物ニシテ官署ヨリ差押ヲ受ケタル物件ヲ藏匿脱漏シタルモ本條ノ罪ヲ



爲スト雖正家資分散ノ際ナリシキハ三百八十八條ノ罪トナルヘキナリ

○第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照テ處斷ス

○第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

(註) 此兩條ハ前條說明シタルヲ以テ復說スルヲ要セサルナリ

○第六節 贓物ニ關スル罪

○第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル

者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ贓物寄藏故買牙保ノ罪ヲ定メタリ贓物トハ強竊盜詐欺取財其他總テ犯罪ニヨリ得タル財物ヲ云フ而シテ強竊盜以外ノ犯罪ニヨリ得タル財物即チ贓物ナルハ第四百一條ノ規定ニヨルヘシ本條ハ單ニ強竊盜ノ場合ノミナリ而シテ本條ノ罪ヲ爲ルニハ贓物ナルヲ知テ爲シタルヲ要ス

○第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○第四百一條 詐僞取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 此兩條亦說明ヲ要セス讀テ字ノ如シ

○第七節 放火失火ノ罪

○第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

(註) 本條以下四百八條迄ハ放火ノ罪ヲ定ム其放火罪成立ノ要件ハ第一放火ノ故意アルヲ

第二放火ノ所爲アルヲ第三誣謐ヲ害スヘキ物件ニ放火セシヲ要ス而シテ本條ハ人ノ住居セル家屋ニ放火シタル場合ヲ定ム其放火セシ物件ノ如何ニヨリ其刑ヲ異ニスルヲ各條ノ定ムル所ナリ

○第四百三條 火ヲ放テ人ヲ住居セサル家屋其他建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

(註) 此二條ハ人ノ生命身体ニ關係ナキヲ以テ輕ク處分シタルノミ別ニ說明ヲ用ヒスシテ明ナリ

○第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス 其人ヲ乘載セサル船舶瀛車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

(註) 本條ハ人ノ生命身体ニ危險アルヲ以テ之レヲ死刑ニ處スト雖正若シ其船舶瀛車ニ人ヲ乘載セサルハ減輕スヘキモノトセリ

○第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス



○第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

(註) 本條ハ自己ノ家屋ニ放火シタル場合ヲ定ム蓋シ放火罪ナルモノハ財產ヲ害スルカ爲

メニ罰スルモノニアラス社會ノ靜謐ヲ害スルヲ以テナリ故ニ自己ノ家屋ト雖モ之レニ放

火シ燒燬シタル者ハ爲メニ靜謐ヲ害ス鮮カラサルヘケレハ本條ヨリ處斷スヘキナリ

○第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(註) 説明スヘキナシ

○第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ニ圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ失火罪ノ規定ナリ放火ハ故意ヲ以テ火ヲ放ツモノナレモ失火ハ過テ火ヲ放チ

タルモノニシテ罪情輕シ即チ無意犯ナルヲ以テナリ

○第八節 決水ノ罪

○第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタル者ハ無期

徒刑ニ處ス若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂流シタル者ハ重懲役ニ處ス

(註) 決水ノ罪トハ水力ヲ以テ身體財產ニ危害ノ恐ヲ與ヘ公衆ノ靜謐ヲ害スルノ所爲ナリ

而シテ此罪モ前節ノ罪ト同シ其被害財產ノ如何ニヨリ刑ニ輕重ノ區別ヲ爲セリ蓋シ危險

ノ大小ニヨリテ生スル自然ノ結果ト云フヘシ本條ノ漂流トハ必スシモ流レ失フヲ要セス

○第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(註) 本條ハ前條ヨリ危險害惡ノ少キ場合ノ規定ナリ注意スヘキハ本條及ヒ前條ハ他人ノ

所有ニ係ル物ノミヲ云フ之レナリ

○第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀損シ其他

水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス (註) 本條ハ水利ヲ妨害スル罪ナリ即チ他ヲ害シ又ハ己ヲ利スル爲メ水利ヲ妨害スル所爲

トス故ニ此意思アリテ水利ヲ妨害シタル者ハ其手段堤防ノ決潰ナルモ水閘ノ毀壞ナリ

○第九節 船舶ヲ覆没スル罪



○第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ但處ス船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

(註) 船舶ヲ覆没スル罪トハ故意ヲ以テ衝突其他ノ所爲ニヨリ船舶ヲ覆没スルノ所爲ヲ云フ而シテ人ヲ乗載セル船舶ナリシキハ死刑ニ處シ死亡ナキキハ負傷アルモ無期徒刑ニ處セラル

○第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(註) 若シ人ヲ乗載セサル船舶ナリシキハ輕懲役ニ處スル旨ヲ定ム蓋シ人ノ身体生命ニ危険ナキヲ以テ條前ヲ比シ輕キ所以ナリ

○第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

○第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス

(註) 本節ノ罪ハ毀損スルノ權利ナクシテ他人ノ財産ヲ毀損スルノ所爲ヲ云フ故ニ不可抗力又ハ過失其他火災ノ際止ムヲ得ス消防夫ノ他人ノ建造物ヲ毀損スルカ如キハ其罪ヲ爲サハルナリ而シテ本條ハ家屋其他ノ建物ニ對スル場合ナリ若シ爲メニ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ從フヘキモノトス

○第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 此三條トモ説明ヲ要セズ

○第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ前數條ニ規定セル物以外ノ器物ヲ毀壞スル罪ニシテ全シテ他人ノ器物ナラサル可ラス自己ノモノナルキハ成罪スルヲナシ

○第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(註) 第四百二十二條ハ他人ノ牛馬ヲ殺シタル罪ヲ定メ第四百二十三條ニ於テ牛馬以外ノ家畜ヲ殺シタル罪ヲ定ム其牛馬以外ノ家畜ヲ殺シタル罪ハ被害者ノ告訴アルコトアラサレハ之ヲ殺シタル罪ニシテ其害微少ナルヲ以テ被害者ノ意ニ任シタルモノナルヘシ



○第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル証書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註) 本條ハ人ノ權利義務ニ關スル証書類ヲ毀棄滅盡スルノ罪ナリ而シテ其毀棄滅盡トハ証書類ヲ毀棄滅盡スルヲ要セス証書類ノ効力ヲ失ハシムルヲ以テ足レリトス

第四編 違警罪

○第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發スルキ物ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五 蒸氣器械其他燈筒火竈ヲ建造修理及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者
- 七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

- 十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
- 十二 定リタル住居ナシ平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
- 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者但被告人偽証ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ

第二百十九條ノ例ニ從フ

○第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ曠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者



十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者  
十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴テ待テ其罪ヲ論ス

○第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 濫リニ馬車ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シタル工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招ニ應セサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲セテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者  
 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者  
 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指通標ノ類ヲ棄毀汚損シタル者

○第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
- 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
- 六 渠溝下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
- 九 身体ノ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
- 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

○第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス



- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ推積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ并ヘ率テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 七 制止ヲ肯セズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
- 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入シタル者

○第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ

其罰則ニ從テ處斷ス

(註)本條ハ違警罪ナルモノハ刑法以外ニアルヲ示シタルモノナリ即チ各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪アリ而シテ此違警罪ヲ犯シタル者ハ其規定ニヨリテ處罰セラル、モノトス



刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ノ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス 元始祭 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭 孝仁天皇祭 神武天皇祭 六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭 天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭 光格天皇祭 十二月祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下附スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ

接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前 犯罪ノ地 犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ典獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家族ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ住居セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑制限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄重禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス



第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

○第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル後典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住所ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ（明治十五年第四十二號布告改正）

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 （明治十五年第四十三號布告剛除）

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ附與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ 犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其ノ警察所ニ送送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレクル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ヲ臨檢スルヲアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由ハ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定メ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中火災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察署ニ差出ス可シ



第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工繕ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居違地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシムヘシ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ并ニ主刑滿期ノ後期限ヲ通算シテ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換タル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘシ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三十八條 假出獄ヲ許可ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サシメ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下附スヘシ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載スヘシ一本人ノ族籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日 二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事 三 假出獄中ニハ特別監視ニ付スヘシ

○第三章 假出獄及ヒ特別監視

キ事 四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數刑期ヲ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ヲ贖本ヘ添ヘ第廿二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監獄ヲ執行セシムヘシ(明治十五年第四十二條布告改正)

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ニ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ 一 每週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届ケ出ツヘシ 二 風

宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス 三 事故アリテ住居ヲ轉移セシトスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス 四 往

復一日程ニ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期期限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察署ニ還納シ警察署ヨリ證書ヲ出シタル典獄ニ遞送スヘシ 主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人タル時ハ警察



署ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分スヘシ  
第四十七條 假出獄ヲ許スヘキ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監視中別  
房ニ留置スヘシ

◎第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與スヘキ日當旅費止  
宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當料費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜之ヲ定ムヘシ(明治十六年第三  
十九號布告改正) 日當 五十錢以下 旅費 一里拾錢以下 止宿料 一宿廿五錢以  
下 住居 三里以下ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給與シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在在中ハ日當並ニ  
止宿料ヲ給與ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給與セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日  
當ノ外若干ノ償金ヲ給與スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス  
可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スルハ其相續人ヨリ  
之ヲ徴収ス

◎第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還附スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在  
ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムルモノトス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者  
ヨリ買取權ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス 若シ公商ニ在ラズシテ買  
取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但  
典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トテ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分  
ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ  
賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ  
請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判  
已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以



テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事

裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

●賭博犯處分規則 (明治十七年第一號布告)

賭博犯ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ

東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ科料ニ處シ家

屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲テ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭

場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以

上五百圓以下ノ科料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依リテ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第三條 賭博犯ヲ取押スルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ル事ヲ得但シ警察官

巡查ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜之ヲ定

メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スル事ヲ得

●富籤賣買處分法 (明治十五年五月廿四日第廿五號布告)

明治元年十二月廿三日ノ御布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處

分方左ノ通制定ス

第一條 凡ソ富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヒテ拂ヒタルト未タ拂ハサルトナ問ハス二十日以上四

月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及

ヒ他人ヨリ譲リ受タル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス 但初犯ニ

科シタル刑限金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ未セ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル時ト雖モ財

物沒收仍ホ前項ニ依ル



監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス 但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス 但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘡痍者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監(北海道ニ在ルモノヲ除ク)及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總

監北海道廳長官府縣知事(東京府ヲ除ク)之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムベシ 警視總監北海道廳長官府

縣知事(東京府ヲ除ク)ハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得



第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムベシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ解放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者
- 三 滿二十歳以上ノ者
- 四 滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者
- 五 滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

- 一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

- 三 滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者
- 三 滿二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭



十二月三十一日

父母ノ喪ニ禮フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以內農業若クハ工藝ヲ教ヘカ作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ

重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ツコトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ白衣ヲ着スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者

一 麥十分ノ六 五合乃至六合 作業ニ服スル者

一 一同 四合 作業ニ服セサル者

一 一同 三合 十歳未満ノ幼者

一 茶 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於

テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髪ハ常ニ之ヲ短縮シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス



刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ハキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除クノ外共現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊、之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木

勝ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺體ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閱ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルハ他物ニ於テモ亦同シ新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令著並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及內務大臣於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者コハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫着セシムヘシ賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應ジテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其懲罰ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課ス
- 二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ盥湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
- 三 閉室 閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ盥湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ



禁ス屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則チ犯ストキハ其輕重チ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日食糧チ二合乃至三合ニ減ス

獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食者クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキチ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルチ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ破毀シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄ニ腰間ニ縲帶セシメ縲帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施鉄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鉄ノ解除チ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルニトシ得但解除中經過セシ日數ハ其施鉄期限ニ算入セス

第四十七條 賞表チ有スル者處罰ヲ受ケタル時ハ其情狀ニ因リ賞表一個又ハ數個ヲ視察スル

コトアルヘシ

第四十八條 獄則チ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

トヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘留スルコトヲ得

コトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ處シ苦情ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則チ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

### 監獄則施行細則

#### 第一章 規程

第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人チ云フ

第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ檢査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房內揭示ノ事項ヲ說示スヘシ

第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

一 在監人ハ互ニ和順チ主トシ常ニ教令ヲ謹守スヘシ



刑事被告人ヲ拘禁スル

- 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁厠園等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起步スヘカラス但晝間ト雖放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談スヘカラス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス

一 許可ヲ得スシテ物件ヲ取授貸借スヘカラス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ヘ通聲スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ

第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ

第五條 領置物品中存保ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル

第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第八條 入監後出房ヒシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ

第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室

等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ

第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ

第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ

第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ問札シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條 領置ノ貨物ヲ下付ストキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ

十一



認印セシムヘシ

十二

第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルヲ得サラシメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルヲ得ス

第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ様嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日ヨリハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ニ限リ居住セヨリ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ヲ有スル者ハ之ヲ貸與スヘシ  
已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出ノコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セシト請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ズ其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ルシムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

十三



第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊チ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設クヘシ  
闇室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス  
密室及闇室ハ一室一人ヲ限トス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ闇室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ル、ノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限  
第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米工瓦煉化石工工碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工藁工炊事掃除ノ内ヲ擇ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ  
右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開墾探礦土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限り獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖他ノ作業ニ付休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムル際ニ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ紳縮スルコトヲ得

第五十條 起床還房就寢罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セ



第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得ス

第五十六條 刑事被告人ノ著用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ自布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ

第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ  
通常服  
一單衣

一裕

一綿入

一襦袢

就役服

一單衣

一裕

一綿入

一襦袢

一股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得

雜具

一蒲團

一蚊帳

一莞菴

一木枕

一帯(長三尺)

一揮(長三尺)

一手巾



- 一 簞
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁澁補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他葛鞋用紙ハ之ヲ付與ス

極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第六十條 病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ

第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯藥等ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但共種類分量ハ典獄ヲ制限テ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得但共購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ  
一 木椀

一 箸

一 飯器

第五十六條 監房常置ノ器具左ノ如シ

一 貯水器竝ニ飯器

一 唾壺

一 便器

一 小箒

一 洗手盆

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ厠圍竝ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種類ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ洗ヒ又ハ大氣ニ晒シ

臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシム



ヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ滯留ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ナシ  
テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノ  
トス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキ  
ハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且  
其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上  
他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ  
刑事被告人死亡シ又ハ囚人及ヒ懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ候ル者死亡シタルトキハ之ヲ  
其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名  
籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等  
ヲ名籍簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺

印セシムヘシ  
監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三寸五寸ニ過キサル氏名

標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞送スルコト  
ヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第八十二條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合  
葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル書信ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘遞送スルモノトス但郵便

税ハ自辨トス

第八十四條 官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便税ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄

費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ不正不長ノ文意アルヤ

否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及緣由ヲ詳悉シタル

上之ヲ許スモノトス



接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ假留監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會ヲヘシ

第八十七條 辨護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限リ訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及烟草ヲ除キ監獄内ニ於テ飲進ヲ要セザルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 総テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ検査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ検査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 検査ノ爲メ解纏シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第九十二條 免幽閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ之ヲ行フヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章 賞譽

第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺葱色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著スルモノトス

第九十六條 賞譽ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタ、シムルコトアルヘシ

四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ニ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ增加ス

五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得

六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス

第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス



- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
  - 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
  - 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ
- 第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケタル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ欵ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施欵期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ欵ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 欵ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施欵期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其欵ヲ免除スルコトヲ得

第一百五條 假ニ欵ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施欵期限ニ算入スヘカラス

第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄長クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ教誨師サシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長之ニ當ルヘシ



表 限 時 作 動 人 監 在

月名	時限	起	床	監房掃除 并ニ喫飯	就	役	午	飯	罷	役	還	厨	就	寢	服役時間 合計	
一月	後午六時	時	一時間	後午七時	時	十二時	ヨリ	後午三時	卅分	五時	迄	後午八時	時	七時	卅分	
二月	六時	時	一時間	七時	時	十二時	ヨリ	四時	時	五時	卅分	迄	八時	間	八時間	
三月	五時卅分	分	一時間	六時卅分	分	十二時	ヨリ	四時	時	六時	迄	八時	時	八時	卅分	
四月	五時	時	一時間	五時	時	十二時	ヨリ	四時	卅分	六時	卅分	迄	九時	時	九時	卅分
五月	五時	時	一時間	六時	時	十二時	ヨリ	五時	時	七時	間	九時	時	九時	卅分	
六月	四時	時	一時間	五時	時	十二時	ヨリ	五時	卅分	七時	卅分	迄	九時	時	十時	卅分
七月	四時	時	一時間	五時	時	十二時	ヨリ	五時	卅分	七時	卅分	迄	九時	時	十時	卅分
八月	四時卅分	分	一時間	五時卅分	分	十二時	ヨリ	五時	時	七時	迄	九時	時	九時	卅分	
九月	五時	時	一時間	六時	時	十二時	ヨリ	四時	卅分	六時	迄	八時	時	九時	間	
十月	五時卅分	分	一時間	六時卅分	分	十二時	ヨリ	四時	時	五時	卅分	迄	八時	時	八時	卅分
十一月	六時	時	一時間	七時	時	十二時	ヨリ	四時	時	四時	卅分	迄	八時	時	八時間	
十二月	六時卅分	分	一時間	七時卅分	分	十二時	ヨリ	三時	卅分	四時	迄	八時	時	七時	間	

備考

- 一 就役罷役及還房時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人及刑事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス
- 一 炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人并ニ病者ノ起床及就寢時間ハ本表ニ依ルノ限リニアラス

監獄則典



明治二十七年二月十五日印刷  
明治二十七年四月十日發行



著作者

發行者

發行者

印刷者

發賣所

發賣所

印刷所

定價 五拾五錢

東京市日本橋區柳原河岸第二號地

岡村萬五郎

東京市日本橋區柳原川岸第二號地

三好守雄

東京市淺草區左衛門町一番地

鵜飼兵太郎

東京市本鄉區湯島一丁目十三番地

松本秋齋

東京市日本橋區柳原川岸二號地

學友館

東京市淺草區三好町六番地

大川屋錠吉

東京市本鄉區湯島一丁目十三番地

葆光



學友館發兌

法全書

定價金五拾錢

郵稅十四錢

民法

定價金拾五錢

郵稅金六錢

商法

定價金五錢

郵稅二錢

民法

定價十二錢

郵稅二錢

刑刑事附訴監獄則法

定價十錢

郵稅二錢

民事訴訟法註解

定價金廿五錢

郵稅四錢

刑事訴訟法註解

定價金廿五錢

郵稅四錢

商法附監獄則

定價金拾五錢

郵稅四錢

日本商法釋義問答

定價金六十錢

郵稅十二錢

市民事訴訟手續

定價八錢五厘

郵稅二錢

小包郵便法

定價三錢

郵稅二錢



